

Agent for Microsoft SharePoint Server

Arcserve® Backup for Windows

18.0

法律上の注意

組み込みのヘルプシステムおよび電子的に配布される資料も含めたこのドキュメント(以下「本書」)はお客様への情報提供のみを目的としたもので、Arcserveにより隨時、変更または撤回することがあります。

Arcserve の事前の書面による承諾を受けずに本書の全部または一部を複写、譲渡、変更、開示、修正、複製することはできません。本書は Arcserve が知的財産権を有する機密情報であり、ユーザは (i) 本書に関する Arcserve ソフトウェアの使用について、Arcserve とユーザとの間で別途締結される契約により許可された以外の目的、または (ii) ユーザと Arcserve との間で別途締結された守秘義務により許可された以外の目的で本書を開示したり、本書を使用することはできません。

上記にかかわらず、本書で取り上げているソフトウェア製品(複数の場合あり)のライセンスを受けたユーザは、そのソフトウェアに関して社内で使用する場合に限り本書の合理的な範囲内の部数のコピーを作成できます。ただし Arcserve のすべての著作権表示およびその説明を各コピーに添付することを条件とします。

本書を印刷するかまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、そのライセンスが終了した場合には、ユーザは Arcserve に本書の全部または一部を複製したコピーを Arcserve に返却したか、または破棄したことを文書で証明する責任を負います。

準拠法により認められる限り、Arcserve は本書を現状有姿のまま提供し、商品性、お客様の使用目的に対する適合性、他者の権利に対する不侵害についての默示の保証を含むいかなる保証もしません。また、本システムの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中止、営業権の喪失、情報の損失等、いかなる損害(直接損害か間接損害かを問いません)が発生しても、Arcserve はお客様または第三者に対し責任を負いません。Arcserve がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本書に記載されたソフトウェア製品は、該当するライセンス契約書に従い使用されるものであり、当該ライセンス契約書はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本書の制作者は Arcserve です。

「制限された権利」のもとでの提供: アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212, 52.227-14 及び 52.227-19(c)(1) 及び (2)、及び、DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

© 2019 Arcserve(その関連会社および子会社を含む)。All rights reserved. サードパーティの商標または著作権は各所有者の財産です。

Arcserve 製品リファレンス

このマニュアルが参照している Arcserve 製品は以下のとおりです。

- Arcserve® Backup
- Arcserve® Unified Data Protection
- Arcserve® Unified Data Protection Agent for Windows
- Arcserve® Unified Data Protection Agent for Linux
- Arcserve® Replication および High Availability

Arcserve Backup マニュアル

Arcserve Backupドキュメントには、すべてのメジャー リリースおよびサービス パックについての特定 のガイドとリリース ノートが含まれています。ドキュメントにアクセスするには、以下のリンクをクリックします。

- [Arcserve Backup 18.0 リリース ノート](#)
- [Arcserve Backup 18.0 マニュアル選択メニュー](#)

Arcserve サポートへの問い合わせ

Arcserve サポート チームは、技術的な問題の解決に役立つ豊富なリソースを提供します。重要な製品情報に簡単にアクセスできます。

テクニカル サポートへの問い合わせ

Arcserve のサポート：

- Arcserve サポートの専門家が社内で共有しているのと同じ情報ライブラリに直接アクセスできます。このサイトから、弊社のナレッジ ベース(KB)ドキュメントにアクセスできます。ここから、重要な問題やよくあるトラブルについて、製品関連 KB 技術情報を簡単に検索し、検証済みのソリューションを見つけることができます。
- 弊社のライブ チャット リンクを使用して、Arcserve サポート チームとすぐにリアルタイムで会話を始めることができます。ライブ チャットでは、製品にアクセスしたまま、懸念事項や質問に対する回答を即座に得ることができます。
- Arcserve グローバルユーザ コミュニティに参加して、質疑応答、ヒントの共有、ベスト プラクティスに関する議論、他のユーザとの会話をを行うことができます。
- サポート チケットを開くことができます。オンラインでサポート チケットを開くと、質問の対象製品を専門とする担当者から直接、コールバックを受けられます。
- また、使用している Arcserve 製品に適したその他の有用なリソースにアクセスできます。

コンテンツ

第1章: エージェントの紹介	9
エージェントの特徴	10
SharePoint Server 2010/2013/2016 の機能	11
SharePoint Server 2007 の機能	12
Microsoft SharePoint Server のサポート	13
SharePoint Server システムにおけるエージェントの動作	14
第2章: エージェントのインストール	15
環境に関する考慮事項	16
インストールの前提条件	17
Agent for Microsoft SharePoint Server のインストールに関する考慮事項	18
エージェントのインストール	20
Agent for Microsoft SharePoint 環境設定ダイアログボックス	21
SharePoint システムでのエージェントの設定	26
第3章: SharePoint 2010/2013/2016 システムのバックアップ	29
SharePoint 2010/2013/2016 でのバックアップの概要	30
2010/2013/2016 でのデータベースレベルバックアップの前提条件	31
SharePoint 2010/2013/2016 でフルバックアップを実行する方法	32
2010/2013/2016 でのバックアップに関する考慮事項	33
SharePoint Server 2010/2013/2016 のバックアップオプションダイアログボックス	34
エージェント バックアップオプション	37
SharePoint Server 2010/2013/2016 でのデータベースレベルのバックアップ	39
第4章: SharePoint 2007 システムのバックアップ	41
SharePoint 2007 でのバックアップの概要	42
データベースレベルのバックアップ前提条件	43
フルバックアップの実行方法	44
バックアップに関する考慮事項	45
データベースレベルエージェント バックアップオプションダイアログボックス	46
SharePoint Server 2007 でのデータベースレベルのバックアップ	48
第5章: SharePoint 2010/2013/2016 システムのリストア	51
SharePoint Server 2010/2013/2016 のリストアの概要	52
SharePoint Server 2010/2013/2016 でのデータベースレベルリストアセット	53
SharePoint Server 2010/2013/2016 のリストアローカルオプションダイアログボックス	54

SharePoint Server 2010/2013/2016 のデータベースレベルリストアオプションダイアログボックス	55
SharePoint Server 2010/2013/2016 のリストア環境設定	57
SharePoint Server 2010/2013/2016 のデータベースレベルリストア前提条件の SharePoint Server リストア環境設定	59
SharePoint Server 2010/2013/2016 の SharePoint Server リストア環境設定のデータベースレベルリストアの実行	60
SharePoint 2010/2013/2016 のドキュメントレベルのリストアオプションダイアログボックス	63
SharePoint 2010/2013/2016 Agent リストア環境設定ダイアログボックス	65
ドキュメントレベルリストアのデスティネーションフォルダ	66
SharePoint 2010/2013/2016 で元の場所へのドキュメントレベルリストアを実行	67
SharePoint 2010/2013/2016 で別の場所へのドキュメントレベルリストアを実行	69
第6章: SharePoint 2007 システムのリストア	73
リストアの概要	74
データベースレベルのリストアセット	75
SharePoint Server 2007 のリストアローカルオプションダイアログボックス	76
SharePoint 2007 のデータベースレベルリストアオプションダイアログボックス	77
リストア環境設定	79
データベースレベルのリストアの前提条件	81
データベースレベルのデータリストアの実行	82
SharePoint 2007 のドキュメントレベルのリストアオプションダイアログボックス	85
[SharePoint 2007 Agent リストア環境設定]ダイアログボックス	87
SharePoint 2007 の元の場所へのドキュメントレベルリストアの実行	88
SharePoint 2007 の別の場所へのドキュメントレベルリストアの実行	90
Agent for Microsoft SharePoint Server の制限	92
第7章: 推奨事項	93
適切な場所の選択方法	94
ダンプの場所へのアクセス権の設定	95
第8章: エージェントによって使用される Microsoft SharePoint Server の機能	97
Microsoft SharePoint Server 2013/2016 の機能	98
Microsoft SharePoint 2013/2016 データ	99
Microsoft SharePoint Server 2010 の機能	102
Microsoft SharePoint 2010 データ	103
Microsoft SharePoint Server 2007 の機能	106
Microsoft SharePoint 2007 データ	107

第9章: 惨事復旧	109
SharePoint 2010/2013/2016 システム上でのデータベースレベルの惨事復旧の実行方法	110
SharePoint 2007 システム上でのデータベースレベルの惨事復旧の実行方法	111
第10章: Microsoft SQL Server のセキュリティ設定	113
Microsoft SQL 認証の種類	114
認証要件	115
Microsoft SQL Server の認証方法の確認と変更	116
第11章: トラブルシューティング	117
AE9972	118
サイトコレクションを元の場所へリストアできない	119
第12章: 用語集	121
データベースレベルのバックアップ	122
データベースレベルのリストア	123
ドキュメント レベルのリストア	124

第1章: エージェントの紹介

Arcserve Backupは、アプリケーション、データベース、分散サーバおよびファイルシステム向けの包括的かつ分散的なストレージソリューションです。データベース、ビジネスクリティカルなアプリケーション、およびネットワーククライアントにバックアップ機能およびリストア機能を提供します。

Arcserve Backupが提供するエージェントには、Arcserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Serverがあります。このエージェントを使用して、Microsoft SharePoint Server 2010/2013/2016、Microsoft Office SharePoint Server 2007、Microsoft SharePoint Foundation 2010、Microsoft Windows SharePoint Services 3.0のデータをバックアップおよびリストアできます。

SharePoint環境は複雑で多くのマシンに分散されますが、エージェントは、すべてのSharePointデータをArcserve Backupサーバにあるインターフェースのシングルノードに統合することで、SharePointインストールの完全な保護を提供します。SharePointのコンテンツは、SharePoint分散データベース、シングルサインオン(SSO)、検索インデックスで構成されます。エージェントを使用すると、Arcserve Backupの機能を使って、ネットワークにあるすべてのSharePointデータのバックアップとリストアを簡単に管理できます。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

<u>エージェントの特徴</u>	10
<u>Microsoft SharePoint Server のサポート</u>	13
<u>SharePoint Server システムにおけるエージェントの動作</u>	14

エージェントの特徴

Agent for Microsoft SharePoint Server は、バックアップおよびリストアの処理を容易にする多くの機能を提供します。現在のところ、Microsoft SharePoint Server 2010/2013/2016、Microsoft Office SharePoint Server 2007、Microsoft SharePoint Foundation 2010/2013/2016、Microsoft Windows SharePoint Services 3.0 に対するバックアップおよびリストア機能が提供されています。

詳細情報：

[SharePoint Server 2010/2013/2016 の機能](#)

[SharePoint Server 2007 の機能](#)

SharePoint Server 2010/2013/2016 の機能

SharePoint Server 2010/2013/2016 に対しては、エージェントによって以下の機能がサポートされます。

- SharePoint Server 2010/2013/2016 ファームとファームコンポーネントをバックアップおよびリストアします。
注: さまざまなファームコンポーネントの詳細については、「[Microsoft SharePoint Server 2010/2013/2016 の機能](#)」を参照してください。
- SharePoint データを元の場所または異なるデスティネーションにリストアするよう指定できます。
- 幅広い種類のストレージ デバイスへのバックアップをサポートします。
- 環境設定のみをバックアップするオプション、および内容と環境設定をバックアップするオプションをサポートします。
- 環境設定のみをリストアするオプション、および内容と環境設定をリストアするオプションをサポートします。
- フェールオーバデータベース サーバ用のデータベース レベル バックアップおよびデータベース レベルおよびドキュメント レベルリストアをサポートします。
- ドキュメント レベルまたは詳細レベルでのリストアをサポートします。

SharePoint Server 2007 の機能

SharePoint Server 2007 に対しては、エージェントによって以下の機能がサポートされます。

- SharePoint Server 2007 フームおよびファーム コンポーネントのバックアップおよびリストアサポートされるファーム コンポーネントの詳細については、「[Microsoft SharePoint Server 2007 の機能](#)」を参照してください。
- SharePoint データを元の場所または異なるデスティネーションにリストアするよう指定できます。
- 幅広い種類のストレージ デバイスへのバックアップをサポートします。
- ドキュメント レベルまたは詳細レベルでのリストアをサポートします。

Microsoft SharePoint Server のサポート

以下の表に、Agent for Microsoft SharePoint Server が動作する Microsoft SharePoint Server のバージョンおよびサポートする Windows オペレーティングシステムを示します。

	Microsoft SharePoint Server 2007	Microsoft SharePoint Server 2007 SP1	Microsoft SharePoint Server 2007 SP2	Microsoft SharePoint Server 2010	Microsoft SharePoint Server 2013	Microsoft SharePoint Server 2016
Windows Server 2003 (x86)	○	○	○	✗	✗	✗
Windows Server 2003 (x64)	○	○	○	✗	✗	✗
Windows Server 2008 (x86)	✗	○	○	✗	✗	✗
Windows Server 2008 (x64)	✗	○	○	○	✗	✗
Windows Server 2008 R2	✗	✗	○	○	○	✗
Windows Server 2012	✗	✗	✗	✗	○	✗
Windows Server 2012 R2	✗	✗	✗	✗	○	✗
Windows Server 2016 Standard または Datacenter	✗	✗	✗	✗	✗	○
Windows Server 2019 Standard または Datacenter	✗	✗	✗	✗	✗	○

SharePoint Server システムにおけるエージェントの動作

Arcserve Backup と Agent for Microsoft SharePoint Server は連携して SharePoint Server データをバックアップおよびリストアします。Arcserve Backup がデータをバックアップする場合、サーバはエージェントに接続し、リクエストを送信します。エージェントは SharePoint Server からデータを取得し、ディスク上のダンプ フォルダにデータをエクスポートしてから、Arcserve Backup にデータを送信します。ここでデータがメディアにバックアップされます。リストアの際もエージェントは同様に動作し、バックアップされたデータを Arcserve Backup からサーバに転送する処理をサポートします。

第2章: エージェントのインストール

この章では、SharePoint 2010/2013/2016 システムおよび SharePoint 2007 システムへの Agent for Microsoft SharePoint Server のインストールと環境設定について説明します。このセクションの説明は、読者が Microsoft SharePoint Server ファームの一般的な特徴と要件について熟知していることを前提としています。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

<u>環境に関する考慮事項</u>	16
<u>インストールの前提条件</u>	17
<u>エージェントのインストール</u>	20

環境に関する考慮事項

SharePoint 環境は複雑になる可能性があり、複数のマシンにわたって分散する場合があります。サーバームの設定は、Microsoft によってサポートされています。例として、分散 SharePoint 環境には、以下のコンポーネントを含めることができます。

- 1つ以上の Web フロントエンド サーバ
- Windows SharePoint Service Help Search サービスが有効になったアプリケーションサーバ(複数可)。
- Office SharePoint Server Search サービスが有効になった Indexer サーバ(複数可)。
- SharePoint Server フームによって使用されるデータベースサーバ(複数可)。

インストールの前提条件

SharePoint Server システムにエージェントをインストールする前に、以下の前提条件を満たす必要があります。

- Agent for Microsoft SharePoint Server をインストールするシステムが、インストールに必要な最小要件を満たしていることを確認します。要件の一覧については *Readme* を参照してください。
- ソフトウェアをインストールするコンピュータに対するシステム管理者 (root ユーザ) 権限または適切な権限を持っていることを確認します。
- Agent for Microsoft SharePoint Server 環境設定 ウィザードに入力するユーザー名には、SharePoint Server フーム内の全マシンへの管理者権限を持っている必要があります。
- Microsoft SharePoint Server フームの管理者グループに属するアカウントを確認します。
- Microsoft SharePoint Server 製品、または Microsoft SharePoint Service 3.0 以降をインストールしたことを確認します。
- Agent for Microsoft SharePoint Server は、フームが元々作成されたのと同じシステムで、Central Administration が実行されているシステムにインストールする必要があります。そうしないと、バックアップリストアのジョブが失敗する可能性があります。

注: 保護している Microsoft SharePoint サーバに Arcserve Backup Agent for Open Files をインストールする必要はありません。Agent for Open Files は、開いているファイルまたはアクティブなアプリケーションによって使用中であるファイルを保護する場合に役立ちます。Agent for Microsoft SharePoint Server は、Lotus Domino サーバの保護に特化した専用エージェントなので、Agent for Open Files のすべての機能を活用した完全なソリューションが提供されます。

Agent for Microsoft SharePoint Server のインストールに関する考慮事項

エージェントをインストールする際は、以下の点を考慮してください。

- Agent for Microsoft SharePoint Server をインストールする前に、Microsoft Office SharePoint Server 製品または Microsoft Windows Shared Service 3.0 以降をインストールする必要があります。このエージェントは、Microsoft Office SharePoint Server がサポートされているすべてのオペレーティングシステムでサポートされています。
- Arcserve Backup サーバは、SharePoint 環境で、名前を使ってすべてのマシンに ping できる必要があります。SharePoint 環境で DNS (ドメインネームシステム) を使用していない場合は、SharePoint 環境にあるすべてのマシンを Arcserve Backup サーバの hosts ファイルに追加する必要があります。
- Microsoft SQL Server Windows サービスをドメイン アカウントまたはローカルシステム アカウントとして実行する必要があります。
- Agent for Microsoft SharePoint Server は、ファームが元々作成されたマシンで、Windows SharePoint Service Administration サービスが実行されているのと同じマシンにインストールする必要があります。そうしないと、バックアップジョブまたはリストアジョブが失敗する可能性があります。
- Arcserve Backup サーバとエージェント サーバが異なるタイムゾーンにある場合、ジョブが正常に完了しない可能性があります。ジョブが確実に完了するようにするには、エージェント サーバと Arcserve Backup サーバとの間でタイムゾーンの同期をとる必要があります。
- Microsoft の既知の問題として、Windows Server 2008 システムに Windows SharePoint Services 3.0 および Microsoft Office SharePoint Server 2007 を展開する方法に応じて、SharePoint 2007 の動作が異なることがわかっています。
 - Windows SharePoint Services 3.0 または Microsoft Office SharePoint Server 2007 Service Pack 1 をアップグレードした場合、ファームが元々作成されたマシンで、Central Administration Service が実行されているマシン上に Arcserve Backup Agent for SharePoint Server をインストールする必要があります。バックアップジョブやリストアジョブをサブミットする前に、このサービスがターゲット マシン上で実行されていることを確認する必要があります。実行されていない場合、ジョブは失敗する可能性があります。
 - Windows SharePoint Services 3.0 または Microsoft Office SharePoint Server 2007 (Service Pack 1 を含む) をインストールした場合、ファームが

元々作成されたマシンで、Central Administration Service が実行されているマシン上に Arcserve Backup Agent for SharePoint Server をインストールします。ただし、この場合、バックアップジョブやリストジョブを実行するターゲット マシン上で Central Administration Service を実行している必要はありません。

- Arcserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Server をこのリリースにアップグレードする際にサーバファーム インストールを選択した場合は、ファームの作成時に使用したのと同じファーム管理者を使用する必要があります。別のファーム管理者を使用する場合は、Agent for Microsoft SharePoint Server の環境設定を起動して、環境設定をもう一度行う必要があります。この制限事項は、サーバファーム インストール（「完全」および「Web フロントエンド」）にのみ影響します。SharePoint の単一サーバ（スタンドアロン）インストールには影響しません。

エージェントのインストール

Agent for Microsoft SharePoint Server は、Arcserve Backup のシステムコンポーネント、エージェント、およびオプションの標準的なインストール手順に従ってインストールします。

Arcserve Backup のインストール方法の詳細については、「[実装ガイド](#)」を参照してください。

Agent for Microsoft SharePoint 環境設定ダイアログボックス

Agent ダイアログ ボックスを開き、以下の手順を使用してオプションを設定できます。

[Agent for Microsoft SharePoint 環境設定]ダイアログ ボックスを開く方法

1. Windows の [スタート] メニューから、[すべてのプログラム] - [Arcserve] - [Arcserve Backup] - [Backup Agent 管理] を選択します。
Arcserve [Backup Agent 管理] ダイアログ ボックスが開きます。
2. ドロップダウンリストから [Arcserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Server] を選択して、[環境設定] をクリックします。
[Agent for Microsoft SharePoint 環境設定] ダイアログ ボックスが開きます。デフォルトでは、[DB レベル環境設定] タブが表示されます。

Agent for Microsoft SharePoint データベースレベル環境設定タブ

Agent for Microsoft SharePoint の [データベースレベル環境設定] タブでは、エージェントがインストールされている共有フォルダに Microsoft SharePoint データを格納するオプションを指定できます。

[データベースレベル環境設定] タブには次のオプションが含まれます。

デフォルトのバックアップ/リストアダンプの場所

[デフォルトのバックアップ/リストアダンプの場所] には、以下のオプションがあります。

注：リストアジョブをサブミットする場合にも同じ場所が使用されます。

- **Arcserve Backup サーバ** - SharePoint データを、テープに保存する前に Arcserve サーバの共有フォルダにエクスポートします。
- **Arcserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Server (ローカルマシン)**
 - SharePoint データを、エージェントがインストールされているローカルコンピュータ上の共有フォルダにエクスポートします。エクスポートされたデータは、ネットワーク経由でテープに保存されます。
- **その他 (NAS、ファイル) のサーバ名** - SharePoint データを、NAS デバイスまたはパブリックの共有フォルダにエクスポートします。このオプションを選択する場合は、サーバ名を指定する必要があります。

注：IP アドレスではなく、ホスト名を指定する必要があります。

バックアップ/リストアダンプのパス

[バックアップ/リストアダンプのパス] では、以下のとおり共有名と物理パスを指定します。

- **共有名** - バックアップ/リストアダンプの場所として [その他 (NAS、ファイル) のサーバ名] を選択した場合は、データのバックアップ先の共有フォルダを指定します。フォルダに対する必要な権限が付与されている必要があります。

注：名前には、特殊文字「\$」を最後に含むことはできません。

- **物理パス** - バックアップ/リストアダンプの場所として [Arcserve Backup サーバ] または [Arcserve Backup Agent for SharePoint Server] を選択した場合は、データのバックアップ先のパスを指定します。

バックアップ/リストアアカウント認証情報

COM+ コンポーネントをインストールするには、[バックアップ/リストア アカウント認証情報]でユーザ名 および パスワードを指定します。

注: COM+ コンポーネントがインストールされていない場合、[認証情報をリセットする]オプションが有効になっています。これらのコンポーネントをインストールするには、ユーザの詳細を入力する必要があります。

- ユーザ名 - ファーム管理者のユーザ情報を定義します。
- パスワード - ファーム管理者のパスワードを定義します。

Agent for Microsoft SharePoint ドキュメント レベル環境設定タブ

さらに細かいレベルでリストアを実行するには、Agent for Microsoft SharePoint の [ドキュメント レベル環境設定] タブでオプションを設定する必要があります。

[ドキュメント レベル環境設定] タブには以下のオプションが含まれます。

ドキュメント レベルオプションを有効にする

ドキュメント レベルのリストア処理を有効にします。[ドキュメント レベルオプションを有効にする] オプションはデフォルトでオンになっています。

注：ドキュメント レベルのオブジェクトのリストアを実行するには、バックアップ オプションのダイアログ ボックスで [エージェントのデフォルト設定を使用する] オプションを選択し、さらにこの [ドキュメント レベルオプションを有効にする] オプションを選択する必要があります。

含めるバージョン

ドキュメントのバージョンに基づいてどのコンテンツをリストアするかを指定します。

- 最後のメジャー バージョン - 最後のメジャー バージョンのコンテンツを含めます。
- 最後のメジャーおよびマイナー バージョン - 最後のメジャーおよびマイナー バージョンのコンテンツを含めます。
- 現在のバージョン - 最新のバージョンのコンテンツを含めます。
- すべてのバージョン(デフォルト) - すべてのバージョンのコンテンツを含めます。

含めるセキュリティ

ユーザおよびセキュリティ グループ情報がリストアされるかどうかを指定します。

- すべて(デフォルト) - ユーザメンバシップおよび役割の割り当てを含めます。これには、「Web デザイナ」などの標準の役割と、標準の役割を元に作成されたカスタムの役割が含まれます。各オブジェクトの ACL がマイグレートされます。
また、DAP または LDAP サーバに定義されたユーザ情報が含まれます。
- WSS のみ - ユーザメンバシップおよび役割の割り当てを含めます。これには、「Web デザイナ」などの標準の役割と、標準の役割を元に作成されたカスタムの役割が含まれます。各オブジェクトの ACL がマイグレートされます。

DAP または LDAP サーバに定義されたユーザ情報は含まれません。

- なし - ユーザまたはグループ情報はマイグレートされません。

バージョンの更新

リストア時にリストア先でバージョン管理がどのように行われるかを指定します。

- 追加(デフォルト) - ディスティネーションのバージョンに追加します。
- 無視 - バージョン管理を無視して、更新されたファイルをインポートします。
- 上書き - 既存のバージョンを削除し、新規バージョンとしてインポートします。

一時利用のSQL Server インスタンス詳細

SQL Server インスタンスにエージェントを接続します。

- サーバ名 - SQL Server のホスト名およびインスタンス名です。
 - データファイルの場所 - この場所は、データベースバックアップダンプを SQL インスタンスにリストアする際にデータベースファイルの保存場所として使用されます。これは、SQL インスタンスをホストするサーバ上のローカルパスである必要があります。また、既存のパスを指定する必要があります。
- 注: SQL Server インスタンスには、データファイルの場所へのアクセス権がある必要があります。
- 認証 - この SQL インスタンスの認証の種類です。SQL Server への接続に使用する認証の種類を選択します。
 - Windows 認証(デフォルト) - 接続に使用するユーザ名およびパスワードを入力できます。
 - SQL Server 認証 - SQL Server 認証モードです。ログインおよびパスワードを入力する必要があります。

注: 一時利用のSQL Server のバージョンは、Microsoft SharePoint のデータベースサーバのバージョンと同じである必要があります。

SharePoint システムでのエージェントの設定

エージェントをインストールしたら、そのエージェントによって以下の COM+ コンポーネントが 1 つ以上インストールされます(検出される SharePoint Server のバージョンに基づく)。

- SharePoint Server 2007: SPS012
- SharePoint Server 2010: SPS014
- SharePoint Server 2013: SPS015
- Sharepoint Server 2016:SPS016

これらのコンポーネントは、SharePoint Server と連携してデータをバックアップおよびリストアします。

注: エージェントを設定する際は、ページファイルの使用サイズが物理メモリを超えていないことを確認する必要があります。超えている場合、設定に失敗する場合があります。

以下の手順に従います。

1. Windows の [スタート] メニューから、[すべてのプログラム]、[Arcserve]、[Arcserve Backup] を選択し、[Backup Agent 管理] をクリックして、[Arcserve Backup Agent 管理] ダイアログ ボックスを開きます。
2. ドロップダウンリストから、Arcserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Server を選択し、[環境設定] をクリックして [Agent for Microsoft SharePoint 環境設定] ダイアログ ボックスを開きます。デフォルトでは、[DB レベル環境設定] タブが表示されます。
3. [DB レベル環境設定] タブでデータベースレベルのオプションを選択し、エージェントのデータベースレベルのバックアップおよびリストア処理を設定します。データベースレベルのオプションの詳細については、「[Agent for Microsoft SharePoint データベースレベル環境設定タブ](#)」を参照してください。

これでデータベースレベルの環境設定が完了しました。

4. [ドキュメント レベル環境設定] タブを選択して、ドキュメント レベルの環境設定オプションを表示します。
5. タブ内のオプションを選択して、ドキュメント レベルのリストアについてエージェントを設定します。ドキュメント レベルのエージェント オプションの詳細については、「[Agent for Microsoft SharePoint Server ドキュメント レベル環境設定タブ](#)」を参照してください。

これでドキュメント レベルの環境設定が完了しました。

6. [OK]をクリックして、ドキュメント レベルおよびデータベース レベルの環境設定を完了します。

第3章: SharePoint 2010/2013/2016 システムのバックアップ

この章では、SharePoint 2010/2013/2016 システムのデータのバックアップについて説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

<u>SharePoint 2010/2013/2016 でのバックアップの概要</u>	30
<u>2010/2013/2016 でのデータベース レベル バックアップの前提条件</u>	31
<u>SharePoint 2010/2013/2016 でフル バックアップを実行する方法</u>	32
<u>2010/2013/2016 でのバックアップに関する考慮事項</u>	33
<u>SharePoint Server 2010/2013/2016 のバックアップ オプション ダイアログ ボックス</u>	34
<u>エージェント バックアップ オプション</u>	37
<u>SharePoint Server 2010/2013/2016 でのデータベース レベルのバックアップ</u>	39

SharePoint 2010/2013/2016 でのバックアップの概要

データベースレベルのバックアップは、SharePoint Server 2010/2013/2016 データベースファイルを保護します。これは SharePoint Server の基本的なバックアップであり、ほかのバックアップ方式を使用している場合でも常に使用する必要があります。システム障害、データベース破壊、または惨事復旧の場合には、データベースレベルのバックアップを使用して SharePoint Server をリストアできます。

2010/2013/2016 でのデータベース レベル バックアップ の前提条件

SharePoint Server 2010/2013/2016 上でデータベース レベルのバックアップを実行する前に、以下の要件を満たしている必要があります。

- Windows SharePoint Services Administrative サービスが、フロントエンド Web サーバおよびアプリケーション サーバで実行中である。
- Microsoft SQL Server が実行中である。

SharePoint 2010/2013/2016 でフル バックアップを実行する方法

データベースのフルバックアップを実行する場合は、特定のファームの管理操作を確認する必要があります。これらの操作のいずれかを実行してから差分バックアップを実行する場合は、以前にフルバックアップしたデータベースを正常にリストアできないこともあります。この問題を回避するには、SharePoint 2010/2013/2016 ファームまたは Windows SharePoint ファームのトポロジに対して以下の変更を行った場合は必ずデータベースのフルバックアップをすぐに実行するようにします。

- 通常の Web アプリケーションまたは SharePoint サービス プロバイダ管理 Web アプリケーションへの新しい Web アプリケーションおよび新しいデータベースの追加。
- フルバックアップ ジョブの実行中のキャンセル。
- バックアップからのデータベースのリストア。

注：Arcserve ファームトポロジを更新した場合、Windows サービスの SharePoint Agent Service を必ず再起動してください。

2010/2013/2016 でのバックアップに関する考慮事項

バックアップを正常に実行するには、以下の点を考慮してください。

- コンポーネント A のフルバックアップを実行してから A の子コンポーネント B のフルバックアップを実行した場合、コンポーネント A の差分バックアップは失敗します。つまり、ファームレベルのフルバックアップのすぐ後にファームレベルの差分バックアップを実行することはできますが、ファームレベルのフルバックアップを行ってから、Web アプリケーションのフルバックアップを実行し、次にファームの差分バックアップを実行することはできません。この場合は、差分ジョブは失敗してエラーメッセージが表示されます。
- SharePoint Server 2010/2013/2016 と同時に Microsoft SQL Server ツール、Central Administration Web サイトなどのツールを使用してバックアップを実行することはできません。たとえば、これらのツールを使用してフルバックアップを実行する場合は、差分バックアップジョブをリストアできないことがあります。
- Agent for Microsoft SharePoint Server と、Client Agent や Agent for SQL Server などのその他のエージェントを使用して SharePoint Server 2010/2013/2016 を保護する場合は、SharePoint 2010/2013/2016 のデータが 2 度以上バックアップされることがあります。この問題を回避するには、SharePoint 2010/2013/2016 データベースおよび Client Agent および Agent for SQL Server バックアップジョブからのファイルを除外する必要があります。

SharePoint Server 2010/2013/2016 は以下をサポートしません。

- [グローバルオプション] の下のエージェント側でのデータの暗号化および圧縮。
- 単一のインスタンスを使用したバックアップジョブのマルチプレキシングのマルチストリーミング。
- 異なる Arcserve Backup ドメインにある 2 つの異なるマシンのエージェントデータのバックアップ。

SharePoint Server 2010/2013/2016 のバックアップ オプション ダイアログ ボックス

以下のセクションでは、Arcserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Server がデータベースレベルのバックアップを実行する場合に提供するオプションについて説明します。

データベースレベルのバックアップ オプションを設定するには、ファーム オブジェクトを右クリックして、[エージェント オプション]をクリックします。[Agent for Microsoft SharePoint のバックアップ オプション]ダイアログ ボックスが開きます。

[Agent for Microsoft SharePoint のバックアップ オプション]ダイアログ ボックスには、以下のオプションが含まれます。

デフォルトのバックアップ ダンプの場所

Arcserve Backup は、バックアップ ダンプの場所に基づいて、テープに保存する前にデータを一時的に保存する場所を決定します。

以下のバックアップ ダンプの場所から選択できます。

- [エージェントのデフォルト 設定を使用する] -- デフォルトで有効になっています。このオプションによって、エージェントの設定時に選択したバックアップ ダンプの場所を利用できます。
- [Arcserve Backup サーバ] -- SharePoint データを Arcserve Backup の共有フォルダにエクスポートします。
- Arcserve [Agent for Microsoft SharePoint Server] -- SharePoint データを SharePoint エージェントがインストールされている共有フォルダにエクスポートします。
- [その他 (NAS、ファイル) のサーバ名] -- SharePoint データを NAS サーバまたはファイルサーバ上の指定された共有フォルダにエクスポートします。

注：IP アドレスではなく、ホスト名を指定する必要があります。

バックアップ ダンプのパス

共有名と物理パスを指定する必要があります。

- [共有名] -- バックアップ ダンプの場所として [その他 (NAS、ファイル) のサーバ名]を選択した場合は、データのエクスポート先の共有名を指定する必要があります。フォルダに対する必要な権限が付与されている必要があります。

注: 共有名の末尾には、特殊文字「\$」を使わないでください。

- [物理パス] -- バックアップ ダンプの場所として Arcserve サーバまたはエージェントを選択した場合は、データのエクスポート先のパスを指定する必要があります。

環境設定のバックアップ

環境設定を選択する必要があります。

- [環境設定のみバックアップする] -- このオプションを選択すると、SharePoint Server の環境設定のみがバックアップされます。
- [内容と環境設定をバックアップする] -- このオプションを選択すると、SharePoint Server の内容および環境設定の両方がバックアップされます。デフォルトでは、このオプションが選択されています。

バックアップ後にダンプデータをディスク上に保存する

このオプションはデフォルトで有効になっています。バックアップを実行した後にディスク上のデータを保持できます。

以下の動作に注意してください。

- 保持されるデータは、通常前回のフルバックアップまたは最新のフルバックアップと、前回の差分バックアップのダンプデータになります。
- ダンプ場所が変更されない場合(保持)：フルバックアップを実行すると、エージェントは前のフルバックアップ セッションおよび増分バックアップ セッションを削除し、前回の最新フルバックアップ セッションを保持します。差分バックアップを実行すると、エージェントは前の差分バックアップを削除し、最新の差分バックアップを保持します。
- ダンプ場所が変更された場合(保持されない)：エージェントは前のダンプ場所からデータを削除しません。
- このオプションを指定した場合、エージェントは、ダンプ キャッシュからデータをリストアします。パスワードを指定せずに、パスワード暗号化が含まれるデータをリストアできます。

ドキュメント レベルリストアを有効にする

ドキュメント レベルのリストア処理を実行できます。このオプションはデフォルトで有効になっています。

バックアップ方式

バックアップ ジョブをサブミットする際、バックアップ方式を選択する必要があります。バックアップ方式によって、Arcserve Backup でデータがどのようにバックアップされるかが決まります。以下のバックアップ方式から選択できます。

- [グローバルまたはローカル設定を使用する] -- デフォルトで有効になっています。これを無効にしない場合は、[スケジュール]タブでバックアップ方式を選択してください。
 - [フル] -- データベース全体をバックアップし、後続の増分バックアップまたは差分バックアップに備えてバックアップされたすべてのファイルにマークを付けます。
- 注:** サービス パックへのアップグレード後およびリストアの実行後に初めてエージェントを実行するときは、必ずフルバックアップを実行してください。
- [差分バックアップ] -- 最後のバックアップ以降に変更されたファイルをバックアップします。

注: [フル]または[差分]のバックアップ方式を選択する場合は、[スケジュール]タブの[バックアップ方式]オプションは適用されません。Microsoft SharePoint 2010/2013/2016 は、[増分バックアップ]方式をサポートしていません。[スケジュール]タブで[増分バックアップ]を選択する場合は、[差分バックアップ]と考えられます。

エージェント バックアップ オプション

バックアップ オプションのダイアログ ボックスでは、データベースの保護方式を以下から選択できます。

データベース エージェント

エージェントを使用して SharePoint データをバックアップします。

ハード ウェア スナップショット

VSS ハード ウェア スナップショットを使用して SharePoint データをバックアップします。このオプションを使用するには、Arcserve Backup Enterprise Module をインストールする必要があります。詳細については、「[Arcserve Backup VSS ガイド](#)」を参照してください。

データベース全体

フル バックアップを使用して、SharePoint Server データベースをバックアップします。フル バックアップを使用して SharePoint Server データベース以外のデータ(検索インデックスなど)をすべてバックアップすることもできます。

注: データベース以外のデータでは、エージェントは、データベース全体のバックアップのみをサポートします。

データベース差分

データベース全体のバックアップが最後に行われてから変更されたデータベースのデータのバックアップを行います。たとえば、日曜日の夜にデータベース全体のバックアップを行った場合、月曜日の夜に差分 バックアップを行い、月曜日に変更されたデータのみをバックアップします。

ファイルとファイルグループ

データベース内の選択したファイルをバックアップします。データベースのサイズやパフォーマンス要件によっては、データベースのフル バックアップを行うのが現実的でない場合があります。このような場合は、このオプションでファイルまたはファイルグループを選択し、バックアップを行います。

ファイルとファイルグループ - 差分

選択したファイルで、最後のファイル/ファイルグループ バックアップから変更されたデータベースのデータをバックアップします。ファイルの差分 バックアップにより、トランザクション ログからリストアすべきトランザクションの数が減少し、回復時間が短縮されます。

トランザクション ログ

トランザクション ログをバックアップします。トランザクション ログのバックアップでは、以下のオプションが提供されます。

- [「アクティブでないエントリをトランザクション ログから削除する】 - トランザクション ログからアクティブでないエントリを切り捨てます。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
- [「アクティブでないエントリをトランザクション ログから削除しない】 - アクティブでないログ エントリはバックアップ後でも保持されます。これらのエントリは、次回のトランザクション ログのバックアップに含まれます。
- [「ログの末尾をバックアップし、データベースは復元中の状態にする】 - ログの末尾がバックアップされ、データベースは読み取り専用およびスタンバイ モードのままになります。前回のバックアップ以降のアクティビティをバックアップして、リストアのためにデータベースをオフラインにするには、このオプションを使用します。

重要: SharePoint 環境設定 データベースのバックアップでは、このオプションを選択しないでください。この機能はサポートされていません。ただし、他の SharePoint データベースのバックアップ時はこのオプションを使用することができます。

以下のデータベースの整合性チェックもサポートされています。

バックアップ前

データベースのバックアップが実行される前に整合性をチェックします。

バックアップ後

データベースのバックアップが実行された後に整合性をチェックします。

DBCC が失敗した場合もバックアップを続行する

データベースの整合性チェックが失敗した場合でもバックアップを続行します。

データベースの物理的な整合性をチェックする

破損ページと共にハードウェア エラー、ページおよびレコード のヘッダの物理構造の状態、ページのオブジェクトとインデックス ID 間の整合性を確認します。

インデックスをチェックしない

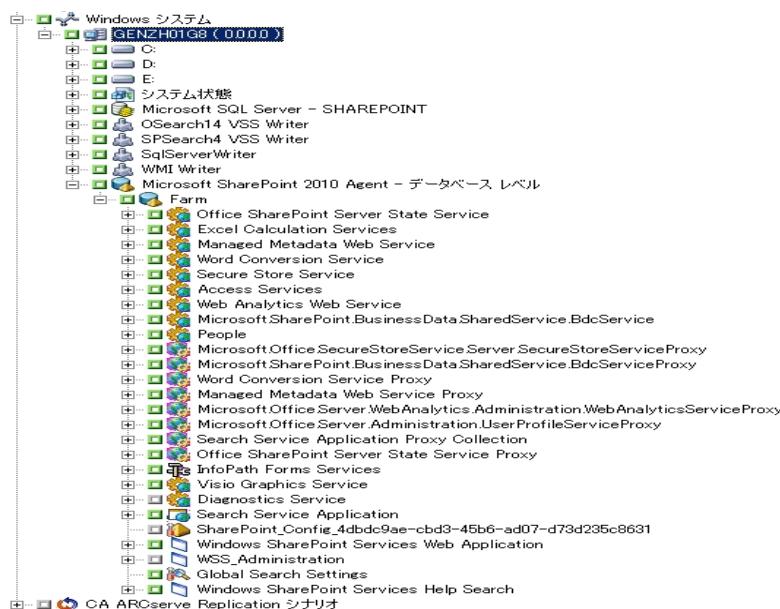
ユーザ定義のテーブル用インデックスをチェックせずに、DBCC を実行します。

SharePoint Server 2010/2013/2016 でのデータベース レベルのバックアップ

Arcserve Backup のバックアップ マネージャを使用して、SharePoint 2010/2013/2016 システムでデータベース レベルのバックアップを実行します。

以下の手順に従います。

1. Arcserve Backup Home Pageで、[クイック スタート]メニューから [バックアップ]を選択します。
バックアップ マネージャ ウィンドウが開きます。



2. [バックアップ マネージャ] ウィンドウで、バックアップする [データベース レベル] オブジェクトを選択します (Microsoft SharePoint 2010/2013/2016 - データベース レベル)。ファーム内の特定のコンポーネントのみをバックアップする場合は、ファームを展開してコンポーネントを選択します。
3. このジョブがある [ファーム] オブジェクトを右クリックし、[エージェント オプション]を選択して、使用するバックアップ方式を選択して [OK] をクリックします。

注: エージェントの最初の実行中にフルバックアップを常に実行して、SharePoint Server データベースの完全なセットを保存できるようにします。

4. [デスティネーション] タブをクリックし、バックアップ先を選択します。
5. [スケジュール] タブをクリックします。

カスタム スケジュールを使用する場合は、繰り返し方法を選択します。ローテーションスキーマを使用する場合は、[ローテーションスキーマ] オプションを選択し、

スキーマを設定します。ジョブのスケジュールおよびローテーションスキームの詳細については、[オンラインヘルプ](#)または「[管理者ガイド](#)」を参照してください。

6. ツールバーの [サブミット] をクリックします。
[セキュリティおよびエージェント情報] ダイアログ ボックスが表示されます。
7. [セキュリティおよびエージェント情報] ダイアログ ボックスが開いたら、各 オブジェクトに対して正しいユーザー名とパスワードが入力されていることを確認します。ユーザー名やパスワードを入力または変更する場合は、[セキュリティ] ボタンをクリックして変更を行い、[OK] ボタンをクリックします。
8. [OK] をクリックします。
[ジョブのサブミット] ダイアログ ボックスが表示されます。
9. [ジョブのサブミット] ダイアログ ボックスから、[即実行] を選択して今すぐジョブを実行するか、[実行日時指定] を選択してジョブを実行する予定の日時を選択します。
10. ジョブの説明を入力します。
複数のソースのバックアップを選択した場合に、ジョブセッションの開始順序を設定するには、[ソース優先度] をクリックします。[一番上へ]、[上へ]、[下へ]、[一番下へ] の各ボタンを使用して、ジョブが処理される順序を変更します。優先順位付けが終わったら、[OK] をクリックします。
11. [OK] をクリックします。
バックアップジョブがサブミットされます。

第4章: SharePoint 2007 システムのバックアップ

この章では、SharePoint 2007 システムのデータのバックアップについて説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

<u>SharePoint 2007 でのバックアップの概要</u>	42
<u>データベース レベルのバックアップ前提条件</u>	43
<u>フル バックアップの実行方法</u>	44
<u>バックアップに関する考慮事項</u>	45
<u>データベース レベル エージェント バックアップ オプション ダイアログ ボックス</u>	46
<u>SharePoint Server 2007 でのデータベース レベルのバックアップ</u>	48

SharePoint 2007 でのバックアップの概要

データベースレベルのバックアップは SharePoint Server 2007 データベース ファイルを保護します。これは SharePoint Server の基本的なバックアップであり、ほかのバックアップ方式を使用している場合でも常に使用する必要があります。システム障害、データベース破壊、または惨事復旧の場合には、データベースレベルのバックアップを使用して SharePoint Server をリストアできます。

データベースレベルのバックアップ前提条件

SharePoint Server 2007 上でデータベースレベルのバックアップを実行する前に、以下の要件を満たす必要があります。

- Windows SharePoint Services Administrative サービスが、フロントエンド Web サーバおよびアプリケーション サーバで実行中である。
- Microsoft SQL Server が実行中である。

フルバックアップの実行方法

データベースのフルバックアップを実行する場合は、特定のファームの管理操作を確認する必要があります。これらの操作のいずれかを実行してから差分バックアップを実行する場合は、以前にフルバックアップしたデータベースを正常にリストアできないこともあります。この問題を回避するためには、SharePoint 2007 ファームまたは Windows SharePoint 3.0 ファームのトポロジに対して以下のような変更を行った場合は必ずデータベースのフルバックアップをすぐに実行するようにします。

- 新しい Web アプリケーション、新しい SharePoint サービス プロバイダ、新しいデータベースの、通常 Web アプリケーションまたは SharePoint サービス プロバイダ管理 Web アプリケーションへの追加。
- SharePoint サービス プロバイダの名前変更。
- 管理 Web アプリケーションが SharePoint サービス プロバイダから切斷されるようにな、SharePoint サービス プロバイダを削除。
- フルバックアップジョブの実行中のキャンセル。
- バックアップからのデータベースのリストア。

バックアップに関する考慮事項

バックアップを正常に実行するためには、以下の点を考慮してください。

- コンポーネント A のフルバックアップを実行してから A の子コンポーネント B のフルバックアップを実行した場合、コンポーネント A の差分バックアップは失敗します。つまり、ファームレベルのフルバックアップのすぐ後にファームレベルの差分バックアップを実行することはできますが、ただし、ファームレベルのフルバックアップを SharePoint Provider Service フルバックアップより前に実行してからファーム差分バックアップを実行することはできません。この場合は、差分ジョブは失敗してエラー メッセージが表示されます。
- SharePoint Server 2007 と同時に Microsoft SQL Server ツール、Central Administration Web サイトなどのツールを使用してバックアップを実行することはできません。たとえば、これらのツールを使用してフルバックアップを実行する場合は、差分バックアップ ジョブをリストアできないことがあります。
- Agent for SharePoint や、Client Agent および Agent for SQL などの他のエージェントを使用して SharePoint Server 2007 を保護しようとする場合は、SharePoint 2007 データは 2 度以上バックアップされることがあります。この問題を回避するには、SharePoint 2007 データベースおよび Client Agent および Agent for SQL Server バックアップ ジョブからのファイルを除外する必要があります。

SharePoint Server 2007 は以下をサポートしません。

- [グローバルオプション] の下のエージェント側でのデータの暗号化および圧縮。
- バックアップ ジョブのマルチプレキシングおよびマルチストリーミング
- 異なる Arcserve Backup ドメインにある 2 つの異なるマシンのエージェント データのバックアップ。

データベースレベル エージェント バックアップ オプション ダイアログ ボックス

以下のセクションでは、Arcserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Server がデータベースレベルのバックアップを実行する場合に提供するオプションについて説明します。

データベースレベルのバックアップ オプションを設定するには、ファーム オブジェクトを右クリックして、[エージェント オプション] をクリックします。[Agent for Microsoft SharePoint 2007 のバックアップ オプション] ダイアログ ボックスが表示されます。

注: このリリースにアップグレードした後でバックアップ ジョブを実行する場合は、Agent for Microsoft SharePoint Server の [ドキュメント レベル環境設定] ダイアログ ボックスで [ドキュメント レベルオプションを有効にする] を手動で選択する必要があります。また、ドキュメント レベルリストアを実行するには、SharePoint Server 2007 の [バックアップ オプション] ダイアログ ボックスで [ドキュメント レベルリストアを有効にする] オプションが有効になっていることを確認してください。

[Agent for Microsoft SharePoint 2007 のバックアップ オプション] ダイアログ ボックスには、以下のフィールド やオプションがあります。

デフォルトのバックアップ ダンプの場所

Arcserve Backup は、バックアップ ダンプの場所に基づいて、テープに保存する前にデータを一時的に保存する場所を決定します。

以下のバックアップ ダンプの場所から選択できます。

- [エージェントのデフォルト 設定を使用する] -- デフォルトで有効になっています。このオプションによって、エージェントの設定時に選択したバックアップ ダンプの場所を利用できます。
- [Arcserve Backup サーバ] -- SharePoint データを Arcserve Backup の共有 フォルダにエクスポートします。
- Arcserve [Agent for Microsoft SharePoint Server] -- SharePoint データを SharePoint エージェントがインストールされている共有 フォルダにエクスポートします。
- [その他 (NAS、ファイル) のサーバ名] -- SharePoint データを NAS サーバまたはファイル サーバ上の指定された共有 フォルダにエクスポートします。

注: IP アドレスではなく、ホスト名を指定する必要があります。

バックアップ ダンプのパス

共有名と物理パスを指定する必要があります。

- [共有名] -- バックアップ ダンプの場所として [その他 (NAS、ファイル) のサーバ名]を選択した場合は、データのエクスポート先の共有名を指定する必要があります。フォルダに対する必要な権限が付与されている必要があります。

注: 共有名の末尾には、特殊文字「\$」を使わないでください。
- [物理パス] -- バックアップ ダンプの場所として Arcserve サーバまたはエージェントを選択した場合は、データのエクスポート先のパスを指定する必要があります。

バックアップ後にダンプデータをディスク上に保存する

このオプションはデフォルトで有効になっています。バックアップを実行した後にディスク上のデータを保持できます。

注: 保持されるデータは、通常前回のフルバックアップまたは最新のフルバックアップと、前回の差分バックアップのダンプデータになります。

ドキュメント レベルリストアを有効にする

ドキュメント レベルのリストア処理を実行できます。このオプションはデフォルトで有効になっています。

バックアップ方式

バックアップ ジョブをサブミットする際、バックアップ方式を選択する必要があります。バックアップ方式によって、Arcserve Backupでデータがどのようにバックアップされるかが決まります。以下のバックアップ方式から選択できます。

- [グローバルまたはローテーション設定を使用する] -- デフォルトで有効になっています。これを無効にしない場合は、[スケジュール]タブでバックアップ方式を選択してください。
- [フル] -- データベース全体をバックアップし、後続の増分バックアップまたは差分バックアップに備えてバックアップされたすべてのファイルにマークを付けます。

注: サービス パックへのアップグレード後およびリストアの実行後に初めてエージェントを実行するときは、必ずフルバックアップを実行してください。

- [差分バックアップ] -- 最後のバックアップ以降に変更されたファイルをバックアップします。

注: [フル]または[差分]のバックアップ方式を選択する場合は、[スケジュール]タブの[バックアップ方式]オプションは適用されません。SharePoint 2007 は、[増分バックアップ]方式をサポートしていません。[スケジュール]タブで[増分バックアップ]を選択する場合は、[差分バックアップ]と考えられます。

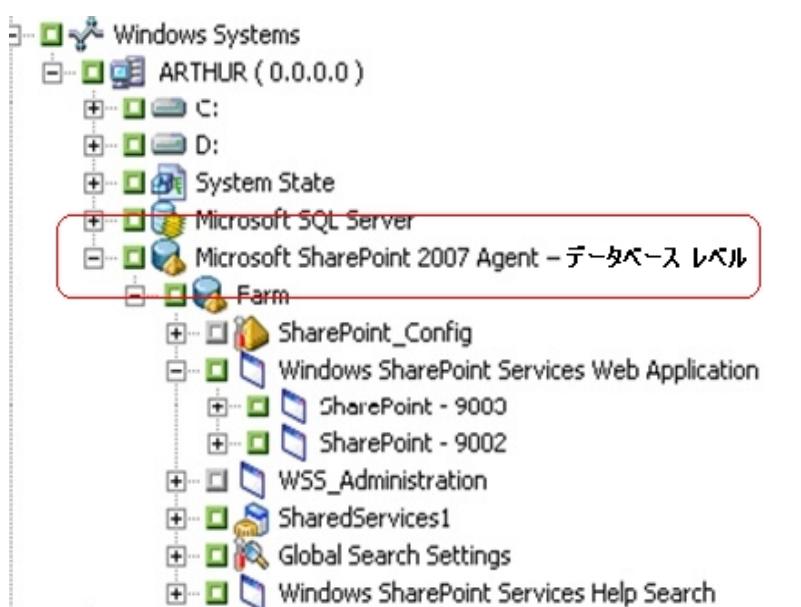
SharePoint Server 2007 でのデータベースレベルのバックアップ

Arcserve Backup のバックアップ マネージャを使用して、SharePoint 2007 システムでデータベース レベルのバックアップを実行します。

SharePoint 2007 システムでデータベース レベルのバックアップを実行する方法

1. Arcserve Backup Home Page で、[クイック スタート] メニューから [バックアップ] を選択します。

バックアップ マネージャ ウィンドウが開きます。



2. [バックアップ マネージャ] ウィンドウで、バックアップする [データベース レベル] オブジェクトを選択します (Microsoft SharePoint 2007 - データベース レベル)。ファーム内の特定のコンポーネントのみをバックアップする場合は、ファームを展開してコンポーネントを選択します。
3. このジョブがある [ファーム] オブジェクトを右クリックし、[エージェント オプション] を選択して、使用するバックアップ方式を選択して [OK] をクリックします。

注: エージェントの最初の実行中にフルバックアップを常に実行して、SharePoint Server データベースの完全なセットを保存できるようにします。

4. [デスティネーション] タブをクリックし、バックアップ先を選択します。
5. [スケジュール] タブをクリックします。

カスタム スケジュールを使用する場合は、繰り返し方法を選択します。ローテーションスキーマを使用する場合は、[ローテーションスキーマ] オプションを選択し、

スキーマを設定します。ジョブのスケジュールおよびローテーションスキームの詳細については、オンラインヘルプまたは「管理者ガイド」を参照してください。

- ツールバーの [サブミット] をクリックします。

[セキュリティおよびエージェント情報] ダイアログ ボックスが表示されます。

- [セキュリティおよびエージェント情報] ダイアログ ボックスが開いたら、各オブジェクトに対して正しいユーザ名とパスワードが入力されていることを確認します。ユーザ名やパスワードを入力または変更する場合は、[セキュリティ] ボタンをクリックして変更を行い、[OK] ボタンをクリックします。

- [OK] をクリックします。

[ジョブのサブミット] ダイアログ ボックスが表示されます。

- [ジョブのサブミット] ダイアログ ボックスから、[即実行] を選択して今すぐジョブを実行するか、[実行日時指定] を選択してジョブを実行する予定の日時を選択します。

- ジョブの説明を入力します。

複数のソースのバックアップを選択した場合に、ジョブセッションの開始順序を設定するには、[ソース優先度] をクリックします。[一番上へ]、[上へ]、[下へ]、[一番下へ] の各ボタンを使用して、ジョブが処理される順序を変更します。優先順位付けが終わったら、[OK] をクリックします。

- [OK] をクリックします。

バックアップジョブがサブミットされます。

第5章: SharePoint 2010/2013/2016 システムのリストア

この章では、SharePoint 2010/2013/2016 システムのデータのリストアについて説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

SharePoint Server 2010/2013/2016 のリストアの概要	52
SharePoint Server 2010/2013/2016 でのデータベースレベルリストア セット	53
SharePoint Server 2010/2013/2016 のリストア ローカル オプション ダイアログ ボックス ...	54
SharePoint Server 2010/2013/2016 のデータベースレベルリストア オプション ダイアログ ボックス	55
SharePoint Server 2010/2013/2016 のデータベースレベルリストア前提条件の SharePoint Server リストア環境設定	59
SharePoint Server 2010/2013/2016 の SharePoint Server リストア環境設定のデータベースレベルリストアの実行	60
SharePoint 2010/2013/2016 のドキュメント レベルのリストア オプション ダイアログ ボックス	63
SharePoint 2010/2013/2016 で元の場所へのドキュメント レベルリストアを実行	67
SharePoint 2010/2013/2016 で別の場所へのドキュメント レベルリストアを実行	69

SharePoint Server 2010/2013/2016 のリストアの概要

このセクションでは、リストアを実行する前に満たす必要がある前提条件、リストア用に提供されている Arcserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Server の機能、SharePoint 2010/2013/2016 システムでデータベースレベルおよびドキュメント レベルのリストアを実行する手順に関する情報について説明します。

SharePoint Server 2010/2013/2016 でのデータベース レベルリストアセット

SharePoint Server をリストアするには、すべてのセッションをリストアする必要があります。これらのセッションをすべて合わせると、データを完全にリストアできます。これらのセッションを「リストア セット」と呼び、以下のセッションが含まれます。

- フルバックアップ方式のみを使用した場合、リストア セットには、このフルセッションのみが含まれます。
- フルバックアップと差分バックアップの両方を使用した場合、リストア セットには、フルバックアップセッションと 1 つの差分バックアップセッションが含まれます。たとえば、以下のバックアップシナリオでは、リストア セットはフルと差分 1、フルと差分 2、フルと差分 3、またはフルと差分 4 となります。

フル	差分 1	差分 2	差分 3	差分 4
----	------	------	------	------

- 差分バックアップからリストアする場合、差分バックアップセッションのみを選択する必要があります。Arcserve Backup では、前のフルバックアップを自動的に検索してから、フルバックアップおよび選択した差分バックアップのセッションの両方を検索します。

SharePoint Server 2010/2013/2016 のリストア ローカル オプション ダイアログ ボックス

[Agent for Microsoft SharePoint のリストア オプション] ダイアログ ボックス (2010/2013/2016) には、データベース レベルのリストア オプションとドキュメント レベルのリストア オプションが含まれています。

詳細情報:

[SharePoint Server 2010/2013/2016 のデータベース レベルリストア オプション ダイアログ ボックス](#)

[SharePoint 2010/2013/2016 のドキュメント レベルのリストア オプション ダイアログ ボックス](#)

SharePoint Server 2010/2013/2016 のデータベースレベルリストアオプション ダイアログ ボックス

リストアジョブを作成する場合、ジョブをカスタマイズするリストアオプションを指定できます。

データベースレベルのリストアオプションを設定するには、ファームオブジェクトを右クリックして、[エージェント オプション]をクリックします。[Agent for Microsoft SharePoint のリストアオプション]ダイアログ ボックスが開きます。

[Agent for Microsoft SharePoint のリストアオプション]ダイアログ ボックスには以下のオプションがあります。

デフォルトのリストアダンプの場所

データをリストアする前に、リストアダンプの場所を選択する必要があります。リストアの場所から、Arcserve Backup は、SharePoint サーバに保存する前にデータを一時的に保存する場所がわかります。

注：リストアオプションを使用してリストアの場所を設定する場合、[Agent 設定] オプションを使用して設定した場所は適用されません。以下のリストアダンプの場所から選択できます。

- エージェントのデフォルト設定を使用する - デフォルトで有効になっています。このオプションによって、エージェントの設定時に選択した場所を利用できます。
- Arcserve Backup サーバ - SharePoint データを Arcserve Backup の共有フォルダにリストアします。
- Arcserve Agent for Microsoft SharePoint Server - SharePoint データを SharePoint エージェントがインストールされている共有フォルダにリストアします。
- その他 (NAS、ファイル) のサーバ名 - SharePoint データを NAS サーバまたはファイルサーバ上の指定された共有フォルダにリストアします。

注：IP アドレスではなく、ホスト名を指定する必要があります。

リストア環境設定

- 環境設定のみリストアする - データベースレベルのリストアの実行中に環境設定をリストアします。

- 内容と環境設定をリストアする - データベースレベルのリストアの実行中に内容と環境設定をリストアします。環境設定オプションの詳細については、「[SharePoint Server 2010/2013/2016 のリストア環境設定](#)」を参照してください。

注: 共有名の末尾には、特殊文字「\$」を使わないでください。

- 物理パス - リストアダンプの場所として Arcserve サーバまたはエージェントを選択した場合は、データのリストア先のパスを指定する必要があります。

これらのオプションと設定方法の詳細については、「[SharePoint システムでのエージェントの設定](#)」を参照してください。

SharePoint Server 2010/2013/2016 のリストア環境設定

リストア環境設定を指定するには、リストアマネージャの [サブミット] ボタンを使用します。

[SharePoint Agent リストア環境設定] ダイアログ ボックスが表示されます。

リストアの種類

リストア後に同じリストア名と場所にすることもでき、別のリストア名と場所にすることもできます。

ログイン名とパスワード

ファーム、Web アプリケーション、および共有サービスプロバイダにログインできるように設定できます。この機密情報は、データをリストアするのに常に必要です。

名前と場所

バックアップ ジョブがリストアされた後に新しい名前または場所になるコンポーネントが 1 つ以上あるように、名前または場所、またはその両方を設定します。

異なるコンポーネントの環境設定項目は、名前と場所が異なります。以下の表には、コンポーネントと環境設定項目をリストします。

コンポーネント タイプ	環境設定項目	コメント
データベース	新しいデータベースサーバ名	データベースをリストアする SQL データベース サーバです。これはエイリアス名の場合もあります。
	新しいディレクトリ名	SQL データベース ファイルを保存する新しい物理パスです。
	新しいデータベース名	リストア後の新しいデータベース名です。
UserProfileApplication	新しいサーバ名	リストア後の UserProfileApplication の新しい My Site アドレスです。
共有検索インデックス	新しいサーバ名	Office 検索インデックス サービスが実行されているコンピュータ名です。
	新しいディレクトリ名	インデックス ファイルが保存されている新しい物理パスです。
Web Application	新しい Web アプリケーションの URL	Web アプリケーションの Web サイトの URL
	新しい Web アプリケーション名	IIS に表示される新しい Web アプリケーションの名

リレーション名	前です。
---------	------

SharePoint Server 2010/2013/2016 のデータベース レベルリストア前提条件の SharePoint Server リストア環境設定

SharePoint Server 2010/2013/2016 上でデータベース レベルのリストアを実行する前に、以下の要件を満たしている必要があります。

- Windows SharePoint Services Administrative サービスおよび Windows SharePoint Services Timer サービスがすべてのフロントエンド Web サーバおよびアプリケーション サーバで実行中であることを確認します。
- スタンドアロンのインストールではタイマ サービスを再起動します。
- 検索 サービスおよびインデックスを新しい場所にリストアする場合は、リストアの開始前に検索 サービスが実行中であることを確認します。
- Web アプリケーションのすべてのコンテンツ データベースに一意の名前が付いていることを確認します。2つの Web アプリケーションが同じ名前のデータベースを使用している場合、リストアすると、2番目のデータベースのデータが最初のデータベースのデータで上書きされます。
- 同時に複数のリストアを実行しないようにしてください。
- ファーム内のすべてのサーバが同じタイムゾーンおよび夏時間を使用していることを確認してください。
- スタンドアロン インストールでは、リストアジョブを実行する前に、以下のアカウントをローカルの Administrators グループに追加してください。リストアジョブが完了したら、これらのアカウントを削除してください。
 - ◆ NT AUTHORITY\LOCAL SERVICE
 - ◆ NT AUTHORITY\NETWORK SERVICE

ローカルの Administrators グループにアカウントを追加する方法

1. [コントロールパネル] - [管理ツール] - [コンピュータの管理] - [システムツール] - [ローカルユーザーとグループ] - [グループ] - [Administrators] を選択します。
2. [追加] をクリックします。
3. 「NETWORK SERVICE」および「LOCAL SERVICE」と入力します。
4. [OK] をクリックします。

SharePoint Server 2010/2013/2016 の SharePoint Server リストア環境設定のデータベースレベルリストアの実行

Arcserve Backup でバックアップ マネージャを使用し、データベースレベルのデータリストアを実行します。

重要: コンテンツ データベースの名前はすべて一意にしてください。コンテンツ データベースをリストアする前に、そのデータベースの名前が他の Web アプリケーションで使用されていないことを確認してください。[セッション単位] 方式を使用してコンテンツ データベースをリストアする際、同じデータベース名が 2 つの異なるアプリケーションで使用されていると、データベースのリストアジョブは「成功」と表示されますが、2 番目のアプリケーションでデータベースの内容を上書きしてしまいます。

以下の手順に従います。

1. Arcserve Backup ホーム画面の [クイック スタート] メニューから [リストア] を選択します。
[リストア マネージャ] ウィンドウが開きます。
2. [リストア マネージャ] ウィンドウから、[ソース] タブのドロップダウン リストで [ツリー単位] を選択します。

注: データベースレベルのリストアでは [ツリー単位] と [セッション単位] の両方がサポートされています。

Microsoft SharePoint 2010/2013/2016 Agent の下 - データベースレベルのノードに複数のファーム オブジェクトがあることがあります。

シングルバックアップ ジョブのファームの下で複数のコンポーネントを選択する場合、複数のファーム オブジェクトが表示されます。各ノードは、バックアップする選択されたコンポーネントと関連付けられます。たとえば、Web アプリケーションと共有サービスを選択する場合は、2 つのファーム オブジェクトが生成されます。1 つのファーム オブジェクトには Web アプリケーションがあり、もう 1 つのファーム オブジェクトには共有サービスがあります。

同じファームまたはコンポーネントを複数回バックアップする場合は、このコンポーネントの最新バックアップを表示するファーム オブジェクトのみが表示されます。

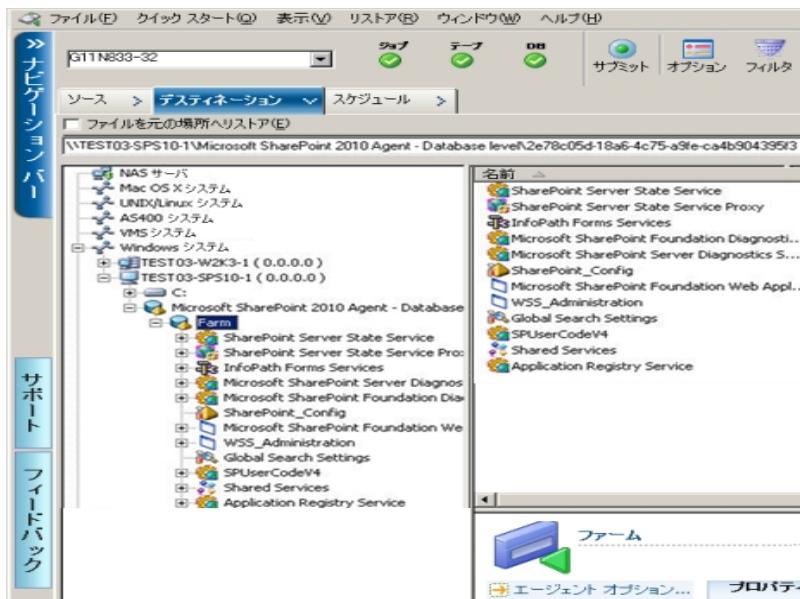
3. ディレクトリツリーから、[Windows システム] オブジェクトを開いて、バックアップしたデータベースを含むファームを開き、ファーム オブジェクトを選択します。

4. リストアするバックアップが最新のバックアップでない場合は、リストアする復旧ポイントセッションを選択します。
5. このジョブに含める各ファームオブジェクトを右クリックし、[エージェント オプション]を選択してリストアオプションを選択します。リストアオプションの詳細については、「[SharePoint Server 2010/2013/2016 のデータベースレベルリストアオプション ダイアログ ボックス](#)」を参照してください。
6. [デスティネーション]タブをクリックします。データベースオブジェクトは元の場所(デフォルト)、または別の場所にリストアすることができます。

注: Windows SharePoint 2010/2013/2016 を使用しており、すべてのファームを別のファームにリストアする場合、Microsoft SharePoint RC ビルドをバージョン 4747.1000 以降にアップグレードする必要があります。Microsoft の既知の問題によると、Web Analytics Service Application Reporting Database の新しいロケーションへのリストアは動作しません。リストアを実行する前に、そのデータベースの元の場所のディレクトリがデスティネーション ファームに存在することを確認してください。

7. 別の場所にリストアする場合、[ファイルを元の場所にリストア]チェック ボックスをオフにして、[Windows システム] オブジェクトを展開し、リストア先のサーバを展開し、[Microsoft SharePoint 2010/2013/2016 - データベースレベル] オブジェクトを選択します。

注: 別の場所にリストアする場合は、リストア先としてファームオブジェクトを選択する必要があります。



8. ツールバーの [サブミット] をクリックします。[リストア環境設定] ダイアログ ボックスに必要な情報を入力します。
別の場所にリストアする場合、[セキュリティ] ダイアログ ボックスが表示された後で、リストア先のサーバのユーザ名とパスワードを入力し、[OK] をクリックします。
9. [セッション ユーザ名 および パスワード] ダイアログ ボックスが開いたら、リストア先のユーザ名とパスワードを確認または変更します。ユーザ名やパスワードを変更するには、セッションを選択し、[編集] ボタンをクリックします。変更を行い、[OK] をクリックします。
注: ユーザ名は以下のフォーマットで入力する必要があります。
<ドメイン>\<ユーザ名>
10. [OK] をクリックします。
11. [ジョブのサブミット] ダイアログ ボックスが開きます。[即実行] を選択して今すぐジョブを実行するか、[実行日時指定] を選択してジョブを実行する予定の日時を選択します。
12. ジョブの説明を入力し、[OK] をクリックします。

重要: リストアの実行後、Internet Information Services (IIS) を再起動する必要があります。

SharePoint 2010/2013/2016 のドキュメント レベルのリストアオプション ダイアログ ボックス

ドキュメント レベルのリストアジョブを作成する場合、[ドキュメント レベル]タブを使用してリストアオプションを指定し、ジョブをカスタマイズすることができます。

ソースを選択し、[エージェント オプション]をクリックします。[Agent for Microsoft SharePoint のリストアオプション]ダイアログ ボックスが開きます。[ドキュメント レベル]タブを選択し、リストア処理を実行するためのオプションを設定します。

SharePoint のドキュメント レベルのリストアオプション ダイアログ ボックスには、以下のオプションがあります。

含めるバージョン

ドキュメントのバージョンに基づいてどのコンテンツをリストアするかを指定します。

- 最後のメジャー バージョン - 最後のメジャー バージョンのコンテンツを含めます。
- 最後のメジャーおよびマイナー バージョン - 最後のメジャーおよびマイナーバージョンのコンテンツを含めます。
- 現在のバージョン - 最新のバージョンのコンテンツを含めます。
- すべてのバージョン(デフォルト) - すべてのバージョンのコンテンツを含めます。

含めるセキュリティ

ユーザおよびセキュリティグループ情報がリストアされるかどうかを指定します。

- すべて(デフォルト) - ユーザメンバシップおよび役割の割り当てを含めます。これには、「Web デザイナ」などの標準の役割と、標準の役割を元に作成されたカスタムの役割が含まれます。各オブジェクトの ACL がマイグレートされます。

また、DAP または LDAP サーバに定義されたユーザ情報が含まれます。

- WSS のみ - ユーザメンバシップおよび役割の割り当てを含めます。これには、「Web デザイナ」などの標準の役割と、標準の役割を元に作成されたカスタムの役割が含まれます。各オブジェクトの ACL がマイグレートされます。

DAP または LDAP サーバに定義されたユーザ情報は含まれません。

- なし - ユーザまたはグループ情報はマイグレートされません。

バージョンの更新

リストア時にリストア先でバージョン管理がどのように行われるかを指定します。

- 追加(デフォルト) - デスティネーションのバージョンに追加します。
- 無視 - バージョン管理を無視して、更新されたファイルをインポートします。
- 上書き - 既存のバージョンを削除し、新規バージョンとしてインポートします。

一時利用のSQL Server インスタンス詳細

SQL Server インスタンスにエージェントを接続します。

- サーバ名 - SQL Server のホスト名 およびインスタンス名 です。
- データファイルの場所 - この場所は、データベースバックアップダンプを SQL インスタンスにリストアする際にデータベースファイルの保存場所として使用されます。これは、SQL インスタンスをホストするサーバ上のローカルパスである必要がります。また、既存のパスを指定する必要があります。

注: SQL Server インスタンスには、データファイルの場所へのアクセス権がある必要があります。

- 認証 - この SQL インスタンスの認証の種類です。SQL Server への接続に使用する認証の種類を選択します。
- Windows 認証(デフォルト) - 接続に使用するユーザ名 およびパスワードを入力できます。
- SQL Server 認証 - SQL Server 認証モードです。ログインおよびパスワードを入力する必要があります。

注: 一時利用のSQL Server のバージョンは、Microsoft SharePoint のデータベースサーバーのバージョンと同じである必要があります。

SharePoint 2010/2013/2016 Agent リストア環境設定 ダイアログ ボックス

別の場所へのドキュメント レベルリストアを実行する際には、[SharePoint Agent リストア環境設定]ダイアログ ボックスを設定する必要があります。

リストア マネージャの [デスティネーション] タブを選択した後、ツールバーの [サブミット] をクリックします。[SharePoint Agent リストア環境設定] ダイアログ ボックスが開きます。

以下のパラメータの情報を入力する必要があります。

デスティネーション サイトのフル URL

サイト コレクションのリストア先のデスティネーションを指定します。

所有者ログイン

新しいサイト コレクションの所有者の詳細を指定します。デスティネーション サイト コレクションが存在しない場合、このユーザ アカウントを使用してデスティネーション サイト コレクションを作成できます。

所有者電子メール

新しいサイト コレクションの所有者の詳細を指定します。

デスティネーション サイト コレクションが存在しない場合、このユーザ アカウントを使用してデスティネーション サイト コレクションを作成できます。

ドキュメント レベルリストアのデスティネーション フォルダ

コンテンツ データベース ノード下のコンポーネントはすべてドキュメント レベルコンポーネントであると考えられます。これらは展開可能です。リストア デスティネーションにはまた、「別の場所へのリストア」機能を使用する際に、ドキュメント レベルコンポーネントが示されます。ソースタイプに基づいて、適切なデスティネーションを選択できます。詳細については以下の表を参照してください。

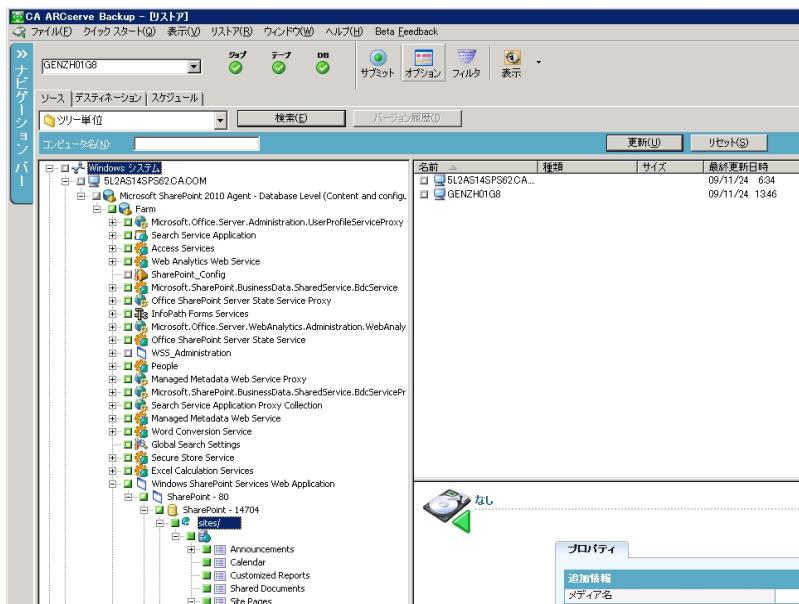
ソース	デスティネーション
サイト コレクション	Web Application
サイト	サイト コレクション
リスト	サイト
フォルダ	リスト、フォルダ
File	リスト、フォルダ
ファイルのバージョン	リスト、フォルダ

SharePoint 2010/2013/2016 で元の場所へのドキュメント レベルリストアを実行

Arcserve Backup でリストア マネージャを使用し、ドキュメント レベルのデータリストアを実行します。

サイト コレクションを元の場所へリストアする方法

1. Arcserve Backup ホームページで、[クイックスタート] メニューから [リストア] を選択します。
[リストア マネージャ] ウィンドウが開きます。
2. [リストア マネージャ] ウィンドウから、[ソース] タブのドロップダウン リストで [ツリー単位] を選択します。
3. ディレクトリツリーから、Windows システム オブジェクトを開き、データベースノードの下のサイト コレクション、サイト、リストおよびリスト項目を含むファームを開き、ファーム オブジェクトを選択します。



4. このジョブに含める各ファーム オブジェクトを右クリックし、[エージェント オプション] を選択してリストア オプションを選択します。
5. [デスティネーション] タブをクリックします。元の場所 (デフォルトの場所) へのデータベース オブジェクトのリストアを選択できます。
6. ツールバーの [サブミット] をクリックします。
7. [セッション ユーザ名 および パスワード] ダイアログ ボックスが開いたら、リストア先のユーザ名とパスワードを確認または変更します。ユーザ名やパスワードを変更する

には、セッションを選択し、[編集]ボタンをクリックします。変更を行い、[OK]をクリックします。

8. [OK]をクリックします。
 9. [ジョブのサブミット]ダイアログ ボックスが開きます。[即実行]を選択して今すぐジョブを実行するか、[実行日時指定]を選択してジョブを実行する予定の日時を選択します。
 10. ジョブの説明を入力し、[OK]をクリックします。
- サイトコレクションがリストアされます。

SharePoint 2010/2013/2016 で別の場所へのドキュメント レベルリストアを実行

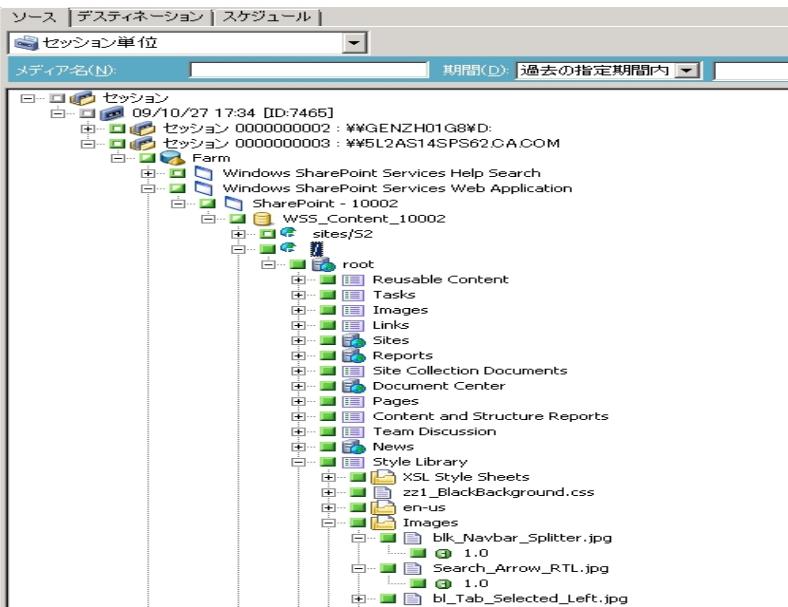
Arcserve Backup でリストア マネージャを使用してドキュメント レベルのデータリストアを実行します。

注: SharePoint Server 2010/2013/2016 のインストール後に [ファームの構成] を実行した場合は、ファームを別の場所にリストアするときに必ず以下の手順に従ってください。

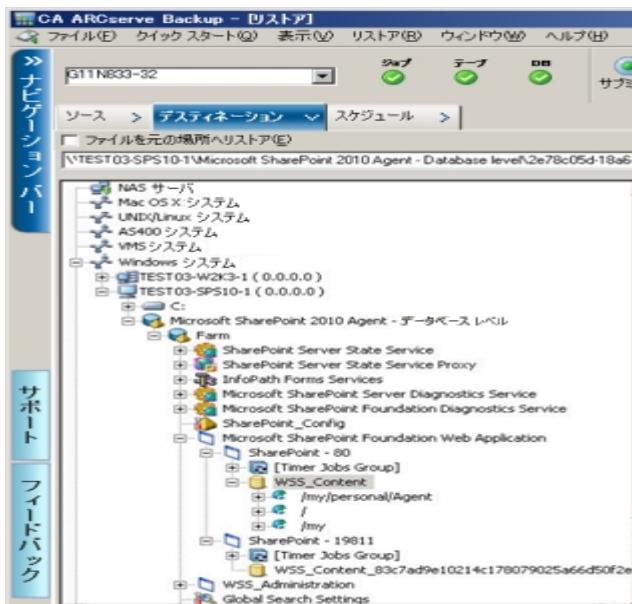
- Windows の [スタート] メニューにある [SharePoint 製品構成 ウィザード] を使用して、ファームを切断します。
 - 以下のサービスが停止され、それらのステータスが無効になっていることを確認します。
 - SharePoint 2010 Tracing
 - SharePoint 2010 User Code Host
 - SharePoint Foundation Search V4
 - SharePoint Server Search 14
 - SharePoint 2010 VSS Writer
 - Microsoft SQL Server Management Studio を使用して、ファーム データベース サーバからデータベースをすべて削除します。
- これで、リストア プロセスを実行するための手順に進むことができます。

サイト コレクションを別の場所にリストアする方法

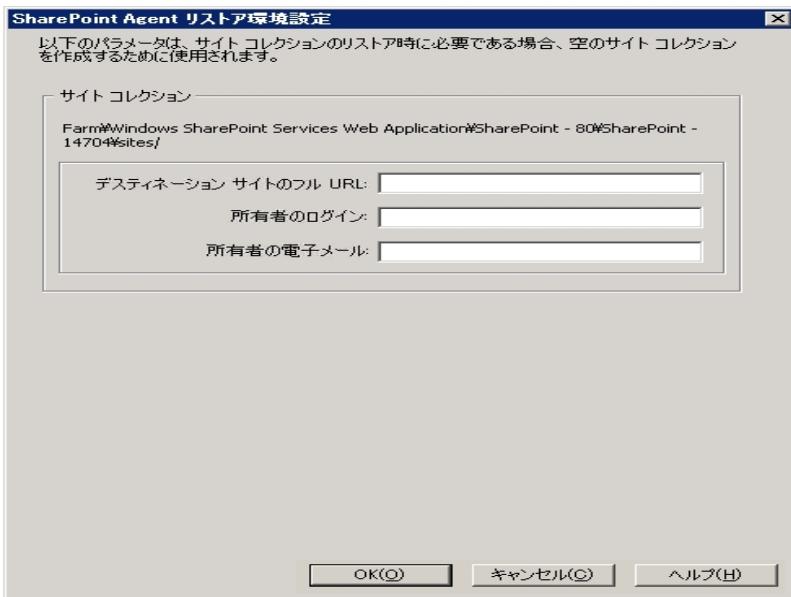
1. Arcserve Backup ホーム画面の [クイック スタート] メニューから [リストア] を選択します。
[リストア マネージャ] ウィンドウが開きます。
2. [リストア マネージャ] ウィンドウから、[ソース] タブのドロップダウンリストで [ツリー単位] を選択します。
3. ディレクトリツリーから、Windows システム オブジェクトを開き、データベース ノードの下のサイト コレクション、サイト、リストおよびリスト項目を含むファームを開き、ファーム オブジェクトを選択します。



4. このジョブに含める各ファームオブジェクトを右クリックし、[エージェント オプション]を選択してリストアオプションを選択します。
5. [デスティネーション]タブをクリックします。データベースオブジェクトを別の場所にリストアすることができます。別の場所の詳細については、「ドキュメントレベルリストアのデスティネーション フォルダ」を参照してください。



6. ツールバーの [サブミット] をクリックします。
- [SharePoint Agent リストア環境設定] ダイアログ ボックスが開きます。



7. 「SharePoint Agent リストア環境設定」ダイアログ ボックスに、ドキュメント レベルのリストアに必要な情報を入力します。
 8. 「セッション ユーザ名 および パスワード」ダイアログ ボックスが開いたら、リストア先のユーザ名とパスワードを確認または変更します。ユーザ名やパスワードを変更するには、セッションを選択し、「編集」ボタンをクリックします。変更を行い、「OK」をクリックします。
 9. 「OK」をクリックします。
 10. 「ジョブのサブミット」ダイアログ ボックスが開きます。「即実行」を選択して今すぐジョブを実行するか、「実行日時指定」を選択してジョブを実行する予定の日時を選択します。
 11. ジョブの説明を入力し、「OK」をクリックします。
- サイト コレクションがリストアされます。

第6章: SharePoint 2007 システムのリストア

この章では、SharePoint 2007 システムのデータのリストアについて説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

リストアの概要	74
データベースレベルのリストア セット	75
SharePoint Server 2007 のリストア ローカル オプション ダイアログ ボックス	76
SharePoint 2007 のデータベースレベルリストア オプション ダイアログ ボックス	77
データベースレベルのリストアの前提条件	81
データベースレベルのデータリストアの実行	82
SharePoint 2007 のドキュメント レベルのリストア オプション ダイアログ ボックス	85
SharePoint 2007 の元の場所へのドキュメント レベルリストアの実行	88
SharePoint 2007 の別の場所へのドキュメント レベルリストアの実行	90
Agent for Microsoft SharePoint Server の制限	92

リストアの概要

このセクションでは、リストアを行う前に満たす必要のある前提条件、Arcserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Server の機能、およびデータベース レベルとドキュメント レベルのリストアを行う手順に関する情報について説明します。

データベースレベルのリストアセット

SharePoint Server をリストアするには、すべてのセッションをリストアする必要があります。これらのセッションをすべて合わせると、データを完全にリストアできます。これらのセッションを「リストア セット」と呼び、以下のセッションが含まれます。

- フルバックアップ方式のみを使用した場合、リストア セットには、このフルセッションのみが含まれます。
- フルバックアップと差分バックアップの両方を使用した場合、リストア セットには、フルバックアップ セッションと 1 つの差分バックアップ セッションが含まれます。たとえば、以下のバックアップ シナリオでは、リストア セットはフルと差分 1、フルと差分 2、フルと差分 3、またはフルと差分 4 となります。

フル	差分 1	差分 2	差分 3	差分 4
----	------	------	------	------

- 差分バックアップからリストアする場合、差分バックアップ セッションのみを選択する必要があります。Arcserve Backup では、前のフルバックアップを自動的に検索してから、フルバックアップおよび選択した差分バックアップのセッションの両方を検索します。

SharePoint Server 2007 のリストアローカルオプション ダイアログ ボックス

Agent for Microsoft SharePoint 2007 ダイアログ ボックスのリストアオプションは、データベースレベルのリストアオプションとドキュメント レベルのリストアオプションから構成されています。

SharePoint 2007 のデータベースレベルリストアオプション ダイアログ ボックス

リストアジョブを作成する場合、ジョブをカスタマイズするリストアオプションを指定できます。

データベースレベルのリストアオプションを設定するには、ファームオブジェクトを右クリックして、[エージェント オプション]をクリックします。[Agent for Microsoft SharePoint 2007 のリストアオプション]ダイアログ ボックスが開きます。

[Agent for Microsoft SharePoint 2007 のリストアオプション]タブには、以下のオプションがあります。

デフォルトのリストアダンプの場所

リストアの場所から、Arcserve Backup は、SharePoint サーバに保存する前にデータを一時的に保存する場所がわかります。

注：リストアオプションを使用してリストアの場所を設定する場合、[Agent 設定] オプションを使用して設定した場所は適用されません。以下のリストアダンプの場所から選択できます。

- エージェントのデフォルト設定を使用する - デフォルトで有効になっています。このオプションによって、エージェントの設定時に選択した場所を利用できます。
- Arcserve Backup サーバ - SharePoint データを Arcserve Backup の共有フォルダにリストアします。
- Arcserve Agent for Microsoft SharePoint - SharePoint データを SharePoint エージェントがインストールされている共有フォルダにリストアします。
- その他 (NAS、ファイル) のサーバ名 - SharePoint データを NAS サーバまたはファイルサーバ上の指定された共有フォルダにリストアします。

注：IP アドレスではなく、ホスト名を指定する必要があります。

リストアダンプのパス

共有名 - デフォルトのリストアダンプの場所として [その他 (NAS、ファイル) のサーバ名] を選択した場合、データのリストア先のサーバ名を指定する必要があります。フォルダに対する必要な権限が付与されている必要があります。

注：共有名の末尾には、特殊文字「\$」を使わないでください。

物理パス - リストアダンプの場所として Arcserve サーバまたはエージェントを選択した場合は、データのリストア先のパスを指定する必要があります。

これらのオプションと設定方法の詳細については、「[SharePoint システムでのエンジントの設定](#)」を参照してください。

リストア環境設定

リストア環境設定を指定するには、リストアマネージャの [サブミット] ボタンを使用します。

このダイアログ ボックスには、以下の情報が含まれます。

リストアの種類

リストア後に同じリストア名と場所にすることもでき、別のリストア名と場所にすることもできます。

ログイン名とパスワード

ファーム、Web アプリケーション、および共有サービスプロバイダにログインできるように設定できます。この機密情報は、データをリストアするのに常に必要です。

名前と場所

バックアップ ジョブがリストアされた後に新しい名前または場所になるコンポーネントが 1 つ以上あるように、名前または場所、またはその両方を設定します。

異なるコンポーネントの環境設定項目は、名前と場所が異なります。以下の表には、コンポーネントと環境設定項目をリストします。

コンポーネント タイプ	環境設定項目	コメント
データベース	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新しいデータベースサーバ名 ■ 新しいディレクトリ名 ■ 新しいデータベース名 	<ul style="list-style-type: none"> ■ データベースをリストアする SQL データベース サーバです。これはエイリアス名の場合もあります。 ■ SQL データベースファイルを保存する新しい物理パスです。 ■ リストア後の新しいデータベース名です。
UserProfileApplication	新しいサーバ名	リストア後の UserProfileApplication の新しい My Site アドレスです。
共有検索インデックス	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新しいサーバ名 ■ 新しいディレクトリ名 	<ul style="list-style-type: none"> ■ Office 検索インデックスサービスが実行されているコンピュータ名です。 ■ インデックスファイルが保存されている新しい物理パスです。
Web Application	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新しい Web アプリケーションの URL 	<ul style="list-style-type: none"> ■ Web アプリケーションの Web サイトの URL

	<ul style="list-style-type: none">■ 新しい Web アプリケーション名■ IIS に表示される新しい Web アプリケーションの名前です。
--	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

データベースレベルのリストアの前提条件

SharePoint Server 2007 でデータベースレベルのリストアを実行する前に、次の要件を満たす必要があります。

- Windows SharePoint Services Administrative サービスおよび Windows SharePoint Services Timer サービスがすべてのフロントエンド Web サーバおよび アプリケーション サーバで実行中であることを確認します。
- スタンドアロンのインストールではタイマ サービスを再起動します。
- 検索 サービスおよびインデックスを新しい場所にリストアする場合は、リストアの開始前に検索 サービスが実行中であることを確認します。
- Web アプリケーションのすべてのコンテンツ データベースに一意の名前が付いていることを確認します。2つのWeb アプリケーションが同じ名前のデータベースを使用している場合、リストアすると、2番目のデータベースのデータが最初のデータベースのデータで上書きされます。
- 同時に複数のリストアを実行しないようにしてください。
- ファーム内のすべてのサーバが同じタイムゾーンおよび夏時間を使用していることを確認してください。
- スタンドアロン インストールでは、リストアジョブを実行する前に、以下のアカウントをローカルの管理者 グループに追加してください。リストアジョブが完了したら、これらのアカウントを削除してください。
 - ◆ NT AUTHORITY\LOCAL SERVICE
 - ◆ NT AUTHORITY\NETWORK SERVICE

ローカルの Administrators グループにアカウントを追加する方法

1. [コントロールパネル] - [管理ツール] - [コンピュータの管理] - [システムツール] - [ローカルユーザーとグループ] - [グループ] - [Administrators] を選択します。
2. [追加] をクリックします。
3. 「NETWORK SERVICE」と「LOCAL SERVICE」と入力します。
4. [OK] をクリックします。

データベース レベルのデータリストアの実行

Arcserve Backup でバックアップ マネージャを使用し、データベース レベルのデータリストアを実行します。

重要: コンテンツ データベースの名前はすべて一意にしてください。コンテンツ データベースをリストアする前に、そのデータベースの名前が他の Web アプリケーションで使用されていないことを確認してください。[セッション単位] 方式を使用してコンテンツ データベースをリストアする際、同じデータベース名が 2 つの異なるアプリケーションで使用されていると、データベースのリストアジョブは「成功」と表示されますが、2 番目のアプリケーションでデータベースの内容を上書きしてしまいます。

SharePoint Server 2007 データベースをリストアする方法

1. Arcserve Backup ホームページで、[ウイック スタート] メニューから [リストア] を選択します。

[リストアマネージャ] ウィンドウが開きます。

2. [リストアマネージャ] ウィンドウから、[ソース] タブのドロップダウン リストで [ツリー単位] を選択します。

注: データベース レベルのリストアでは [ツリー単位] と [セッション単位] の両方がサポートされています。



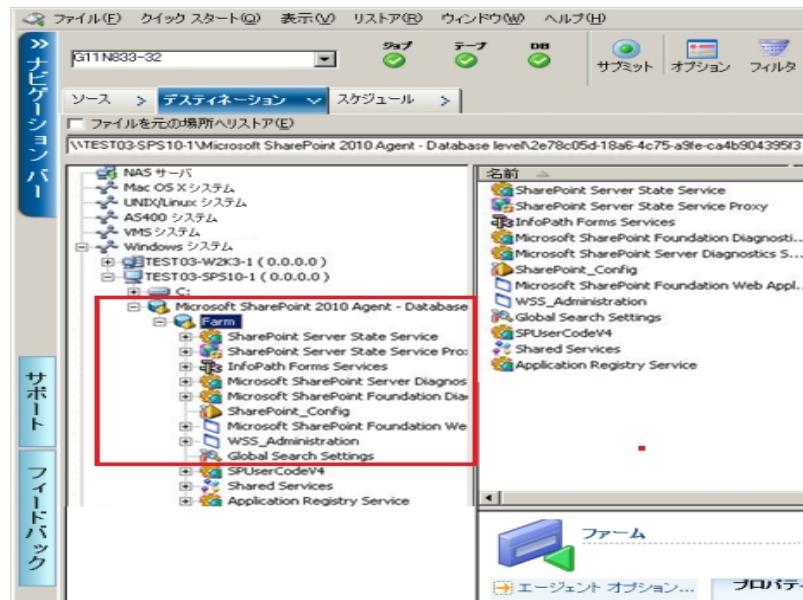
Microsoft SharePoint 2007 Agent の下 - データベース レベルのノードに複数のファーム オブジェクトがあります。

シングルバックアップ ジョブのファームの下で複数のコンポーネントを選択する場合、複数のファーム オブジェクトが表示されます。各ノードは、バックアップする選択されたコンポーネントと関連付けられます。たとえば、Web アプリケーションおよび SharePoint プロバイダ サービスを選択する場合は、2 つのファーム オブジェクトが生成されます。1 つのファーム オブジェクトには Web アプリケーションがあり、もう 1 つのファーム オブジェクトには SharePoint Provider サービスがあります。

同じファームまたはコンポーネントを複数回バックアップする場合は、このコンポーネントの最新バックアップを表示するファームオブジェクトのみが表示されます。

3. ディレクトリツリーから、[Windows システム]オブジェクトを展開して、バックアップしたデータベースを含むファームを展開し、ファームオブジェクトを選択します。
4. リストアするバックアップが最新のバックアップでない場合は、リストアする復旧ポイントセッションを選択します。
5. このジョブに含める各ファームオブジェクトを右クリックし、[エージェントオプション]を選択してリストアオプションを選択します。リストアオプションの詳細については、「SharePoint 2007 のデータベースレベルのリストアオプションダイアログボックス」を参照してください。
6. [デスティネーション]タブをクリックします。データベースオブジェクトは元の場所(デフォルト)、または別の場所にリストアすることができます。
7. 別の場所にリストアする場合、[ファイルを元の場所にリストア]チェックボックスをオフにして、[Windows システム]オブジェクトを展開し、リストア先のサーバを展開し、[Microsoft SharePoint 2007 - データベースレベル]オブジェクトを選択します。

注: 別の場所にリストアする場合は、リストア先としてファームオブジェクトを選択する必要があります。



8. ツールバーの[サブミット]をクリックします。[リストア環境設定]ダイアログボックスに必要な情報を入力します。
9. 別の場所にリストアする場合、[セキュリティ]ダイアログボックスが表示された後で、リストア先のサーバのユーザ名とパスワードを入力し、[OK]をクリックします。

10. [セッション ユーザ名 および パスワード]ダイアログ ボックスが開いたら、リストア先のユーザ名とパスワードを確認または変更します。ユーザ名やパスワードを変更するには、セッションを選択し、[編集]ボタンをクリックします。変更を行い、[OK]をクリックします。

注: ユーザ名は以下のフォーマットで入力する必要があります。

<ドメイン>\<ユーザ名>

11. [OK]をクリックします。
12. [ジョブのサブミット]ダイアログ ボックスが開きます。[即実行]を選択して今すぐジョブを実行するか、[実行日時指定]を選択してジョブを実行する予定の日時を選択します。
13. ジョブの説明を入力し、[OK]をクリックします。

重要: リストアの実行後、Internet Information Services (IIS) を再起動する必要があります。

SharePoint 2007 のドキュメント レベルのリストアオプション ダイアログ ボックス

ドキュメント レベルのリストアジョブを作成する場合、[ドキュメント レベル]タブを使用してリストアオプションを指定し、ジョブをカスタマイズすることができます。

ソースを選択し、[エージェント オプション]をクリックします。[Agent for Microsoft SharePoint 2007 のリストアオプション]ダイアログ ボックスが開きます。[ドキュメント レベル]タブを選択し、オプションを設定します。

[Agent for Microsoft SharePoint 2007 のリストアオプション]ダイアログ ボックスには、以下のオプションが含まれます。

含めるバージョン

ドキュメントのバージョンに基づいてどのコンテンツをリストアするかを指定します。

- 最後のメジャー バージョン - 最後のメジャー バージョンのコンテンツを含めます。
- 最後のメジャーおよびマイナー バージョン - 最後のメジャーおよびマイナー バージョンのコンテンツを含めます。
- 現在のバージョン - 最新のバージョンのコンテンツを含めます。
- すべてのバージョン(デフォルト) - すべてのバージョンのコンテンツを含めます。

含めるセキュリティ

ユーザおよびセキュリティ グループ情報がリストアされるかどうかを指定します。

- すべて(デフォルト) - ユーザメンバシップおよび役割の割り当てを含めます。これには、「Web デザイナ」などの標準の役割と、標準の役割を元に作成されたカスタムの役割が含まれます。各オブジェクトの ACL がマイグレートされます。

また、DAP または LDAP サーバに定義されたユーザ情報が含まれます。

- WSS のみ - ユーザメンバシップおよび役割の割り当てを含めます。これには、「Web デザイナ」などの標準の役割と、標準の役割を元に作成されたカスタムの役割が含まれます。各オブジェクトの ACL がマイグレートされます。

DAP または LDAP サーバに定義されたユーザ情報は含まれません。

- なし - ユーザまたはグループ情報はマイグレートされません。

バージョンの更新

リストア時にリストア先でバージョン管理がどのように行われるかを指定します。

- 追加(デフォルト) - デスティネーションのバージョンに追加します。
- 無視 - バージョン管理を無視して、更新されたファイルをインポートします。
- 上書き - 既存のバージョンを削除し、新規バージョンとしてインポートします。

一時利用の SQL Server インスタンス詳細

SQL Server インスタンスにエージェントを接続します。

- サーバ名 - SQL Server のホスト名およびインスタンス名です。
- データファイルの場所 - この場所は、データベースバックアップダンプを SQL インスタンスにリストアする際にデータベースファイルの保存場所として使用されます。これは、SQL インスタンスをホストするサーバ上のローカルパスである必要があります。また、既存のパスを指定する必要があります。
- 注: SQL Server インスタンスには、データファイルの場所へのアクセス権がある必要があります。
- 認証 - この SQL インスタンスの認証の種類です。SQL Server への接続に使用する認証の種類を選択します。
- Windows 認証(デフォルト) - 接続に使用するユーザ名およびパスワードを入力できます。
- SQL Server 認証 - SQL Server 認証モードです。ログインおよびパスワードを入力する必要があります。

注: 一時利用の SQL Server のバージョンは、Microsoft SharePoint のデータベースサーバーのバージョンと同じである必要があります。

〔SharePoint 2007 Agent リストア環境設定〕ダイアログ ボックス

別の場所へのドキュメント レベルリストアを実行する際には、〔SharePoint 2007 Agent リストア環境設定〕ダイアログ ボックスを設定する必要があります。

リストア マネージャの〔デスティネーション〕タブを選択した後、ツールバーの〔サブミット〕をクリックします。〔SharePoint 2007 Agent リストア環境設定〕ダイアログ ボックスが開きます。

以下のパラメータの情報を入力する必要があります。

デスティネーション サイトのフル URL

サイトコレクションのリストア先のデスティネーションを指定します。

所有者ログイン

新しいサイトコレクションの所有者の詳細を指定します。デスティネーション サイトコレクションが存在しない場合、このユーザ アカウントを使用してデスティネーション サイトコレクションを作成できます。

所有者電子メール

新しいサイトコレクションの所有者の詳細を指定します。

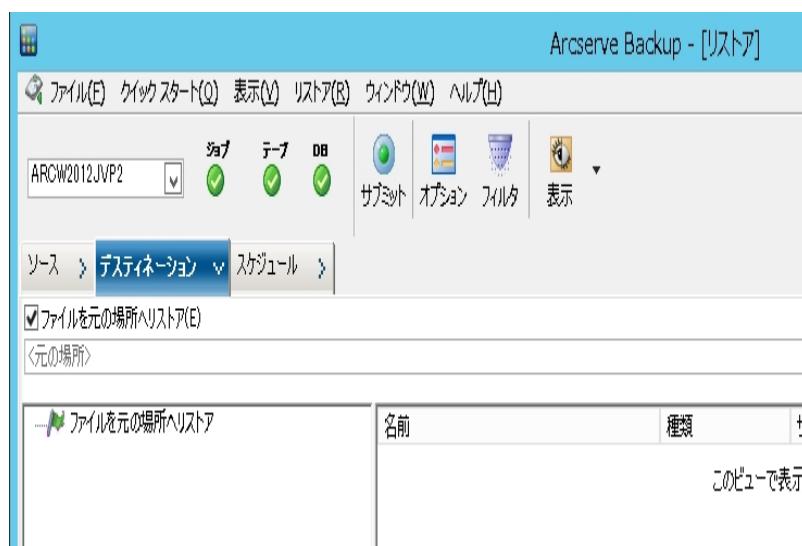
デスティネーション サイトコレクションが存在しない場合、このユーザ アカウントを使用してデスティネーション サイトコレクションを作成できます。

SharePoint 2007 の元の場所へのドキュメント レベルリストアの実行

Arcserve Backup でリストア マネージャを使用し、ドキュメント レベルのデータリストアを実行します。

サイト コレクションを元の場所へリストアする方法

1. Arcserve Backup ホームページで、[クイックスタート] メニューから [リストア] を選択します。
[リストア マネージャ] ウィンドウが開きます。
2. [リストア マネージャ] ウィンドウから、[ソース] タブのドロップダウン リストで [ツリー単位] を選択します。
3. ディレクトリツリーから、Windows システム オブジェクトを展開し、データベースノードの下のサイト コレクション、サイト、リストおよびリスト項目を含むファームを展開し、ファーム オブジェクトを選択します。
4. このジョブに含める各ファーム オブジェクトを右クリックし、[エージェント オプション] を選択してリストア オプションを選択します。
5. [デスティネーション] タブをクリックします。元の(デフォルト)場所へデータベース オブジェクトをリストアできます。



6. ツールバーの [サブミット] をクリックします。
7. [セッション ユーザ名 および パスワード] ダイアログ ボックスが開いたら、リストア先のユーザ名とパスワードを確認または変更します。ユーザ名やパスワードを変更するには、セッションを選択し、[編集] ボタンをクリックします。変更を行い、[OK] をクリックします。

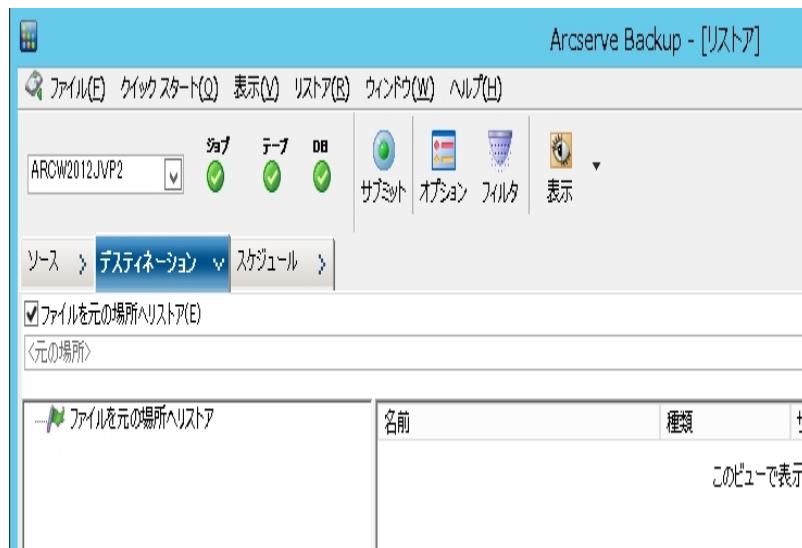
8. [OK]をクリックします。
9. [ジョブのサブミット]ダイアログ ボックスが開きます。[即実行]を選択して今すぐジョブを実行するか、[実行日時指定]を選択してジョブを実行する予定の日時を選択します。
10. ジョブの説明を入力し、[OK]をクリックします。
サイトコレクションがリストアされます。

SharePoint 2007 の別の場所へのドキュメント レベルリストアの実行

Arcserve Backup でリストア マネージャを使用し、ドキュメント レベルのデータリストアを実行します。

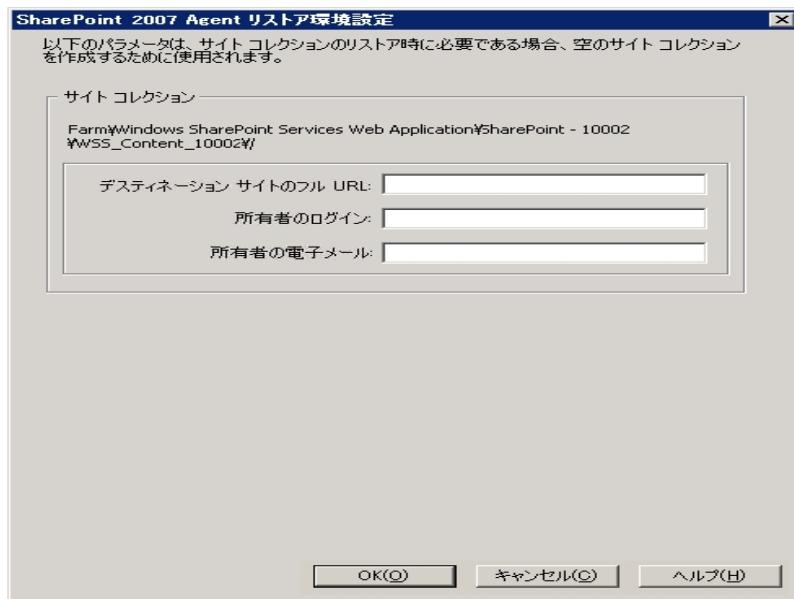
サイト コレクションを元の場所または別の場所へリストアする方法

1. Arcserve Backup ホームページで、[クイックスタート] メニューから [リストア] を選択します。
[リストア マネージャ] ウィンドウが開きます。
2. [リストア マネージャ] ウィンドウから、[ソース] タブのドロップダウン リストで [ツリー単位] を選択します。
3. ディレクトリツリーから、Windows システム オブジェクトを開き、データベースノードの下のサイト コレクション、サイト、リストおよびリスト項目を含むファームを開き、ファーム オブジェクトを選択します。
4. このジョブに含める各ファーム オブジェクトを右クリックし、[エージェント オプション] を選択してリストアオプションを選択します。
5. [デスティネーション] タブをクリックし、デスティネーションとしてファーム オブジェクトを選択します。別の場所の詳細については、「[ドキュメント レベルリストアのデスティネーション フォルダ](#)」を参照してください。



注: 別の場所にリストアする場合は、リストア先としてファーム オブジェクトを選択する必要があります。

6. ツールバーの [サブミット] をクリックします。 [リストア環境設定] ダイアログ ボックスに必要な情報を入力します。



7. [セッション ユーザ名 および パスワード] ダイアログ ボックスが開いたら、リストア先のユーザ名とパスワードを確認または変更します。ユーザ名やパスワードを変更するには、セッションを選択し、[編集] ボタンをクリックします。変更を行い、[OK] をクリックします。
8. [OK] をクリックします。
9. [ジョブのサブミット] ダイアログ ボックスが開きます。[即実行] を選択して今すぐジョブを実行するか、[実行日時指定] を選択してジョブを実行する予定の日時を選択します。
10. ジョブの説明を入力し、[OK] をクリックします。
- サイトコレクションがリストアされます。

Agent for Microsoft SharePoint Server の制限

Agent for Microsoft SharePoint Server は、SharePoint システムのドキュメント レベルまたは詳細レベルのリストア処理の一部を実行できません。このエージェントでは、以下をリストアすることはできません。

- 環境設定またはアプリケーション データ。そのため、Web アプリケーションまたはアプリケーション ページ用に開発されたバイナリはリストアできません。
- カスタマイズされたサイト定義、リスト定義、コンテンツ タイプ定義、フィールド定義。
- アラート、監査証跡、変更ログ履歴、チェックイン/チェックアウト 状態のアイテム、ごみ箱のアイテム、ごみ箱の状態、セキュリティ状態、ワークフロー タスクおよびワークフロー 状態。
- 外部 BLOB ストア(EBS)。
- 別の場所への調査リストなどのリスト項目。調査全体のリストアのみ実行できます。
- ルート Web サイト。
- チーム ディスカッションおよび PKI リストなどの項目 バージョン。
- DB レベルのリストアの実行中に管理 サイトの下で作成されたドキュメント。

他の制限

- ファイルに 1 つしかバージョンがなく、それがチェックアウト 状態の場合、エージェントはこのファイルをリストアできません。
- リスト/サイト/サイト コレクションの元の場所へのリストアでは、ごみ箱からリスト項目をリストアしません。ただし、以下の手順を実行してリストアを試行することができます。
 - a. サイト レベルおよびサイト コレクション レベルの両方でごみ箱を空にします。
 - b. これらのリスト項目を別々にリストアします。

注：リストにはドキュメント ライブラリが含まれません。

- 2 つの異なるドメイン間ではセキュリティ設定の互換性がないため、あるドメインから別のドメインにリストアすることはお勧めしません。

重要：オブジェクト、リスト項目 やフォルダ、リスト、または Web を元の場所にリストアする場合、オブジェクトの親の場所が存在することを確認する必要があります。

第7章: 推奨事項

このセクションでは、SharePoint 2007 システムで Arcserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Server を使用する際の推奨事項について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

<u>適切な場所の選択方法</u>	94
<u>ダンプの場所へのアクセス権の設定</u>	95

適切な場所の選択方法

バックアップおよびリストアの両方にとて適切な場所を選択する必要があります。以下の考慮点が適用されます。

- ディスク上の空き容量 - The Agent for SharePoint 2007 は、バックアップおよびリストア中にダンプの場所でデータを保存します。バックアップするコンポーネントすべてを保持するのに十分なディスク容量があることを確認します。バックアップジョブに必要なディスク容量を確認したい場合は、バックアップマネージャを開いて、バックアップするコンポーネントを選択して、必要なディスク容量を確認します。

必要なオブジェクトディスク サイズ	3,318,633,869 バイト
-------------------	-------------------

- 使用可能なネットワーク帯域幅 - ネットワークトラフィックおよびかかるコストによって、差分ダンプの場所の使用可能なネットワーク帯域幅を選択する必要があります。以下の点を考慮してください。
 - Arcserve Server は、データを 1 度だけ転送するため、あまりコストがかかりません。
 - Arcserve SharePoint Agent (ローカルマシン) およびその他 (NAS、ファイル) のサーバ名は、データを 2 度転送があるので、コストがかかります。
- Arcserve Server および SharePoint 2007 Agent の場所 - Arcserve SharePoint Agent (ローカルマシン) およびその他の (NAS、ファイル) のサーバ名は、以下の 4 つのシナリオをすべてサポートします。
 - エージェントおよびサーバは、1 つのウインドウドメインにインストールされます。
 - エージェントおよびサーバは、2 つの異なるドメインにインストールされ、ドメインはもう 1 つのドメインを信頼します。
 - エージェントおよびサーバは、異なる Windows ドメインにインストールされ、信頼関係はありません。
 - エージェントまたはサーバの片方がワークグループにインストールされ、もう片方はドメインにインストールされます。

注: Arcserve Server は、上記の最初の 2 つのシナリオのみをサポートします。

ダンプの場所へのアクセス権の設定

以下の表内のアカウントは、共有フォルダにアクセスできます。

アカウント	バックアップに関するダンプの場所のアクセス権	バックアップに関するダンプの場所のアクセス権
データベースサーバのSQLアカウント	フルコントロール以外のすべてのアクセス権	読み取り権限
タイムサービスアカウント	フルコントロール以外のすべてのアクセス権	読み取り権限
セントラル管理プールアカウント	フルコントロール以外のすべてのアクセス権	フルコントロール以外のすべてのアクセス権

データベースサーバのSQLアカウントがローカルシステム上にある場合は、必要な権限をSQLサーバコンピュータに付与します。共有フォルダへのアクセス権を割り当てられているユーザを確認したい場合は、バックアップマネージャを開き、アカウントを選択して、共有フォルダへのアクセス権のあるユーザのリストを確認します。

SQL Serverアカウントには、以下の単一サーバおよびサーバファームの標準的な要件が含まれます。

注: SQL Serverサービスアカウントを仮想アカウントとして定義した場合、バックアップリストアのジョブは失敗します。

	アカウント	標準的な要件
単一サーバ	SQL Serverサービス	ローカルシステムアカウント(デフォルト)
サーバファーム 重要: このアカウントは SharePoint サーバにのみ適用されます。	SQL Serverサービス	ローカルシステムアカウントまたはドメインユーザアカウント

第8章: エージェントによって使用される Microsoft SharePoint Server の機能

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

<u>Microsoft SharePoint Server 2013/2016 の機能</u>	98
<u>Microsoft SharePoint 2013/2016 データ</u>	99
<u>Microsoft SharePoint Server 2010 の機能</u>	102
<u>Microsoft SharePoint 2010 データ</u>	103
<u>Microsoft SharePoint Server 2007 の機能</u>	106
<u>Microsoft SharePoint 2007 データ</u>	107

Microsoft SharePoint Server 2013/2016 の機能

エージェントでサポートされる SharePoint Server 2013/2016 ファームコンポーネントは以下のとおりです。

- Forms Service
- License to Feature Mappings
- State Service
- Web Application
- Microsoft SharePoint Foundation Sandboxed Code Service
- SharePoint Server Search
- Access Services 2010 Web Service
- Secure Store サービス
- PowerPoint Conversion Service
- PerformancePoint Service
- Visio Graphics Service
- Managed Metadata
- App Management Service
- Excel Services Application Web Service アプリケーション
- Security Token Service アプリケーション
- Machine Translation Service
- Word Automation Services
- User Profile Service
- Business Data Connectivity Service
- Work Management Service
- Access Services Web Service
- Search Service

Microsoft SharePoint 2013/2016 データ

Agent for Microsoft SharePoint Server は、以下の SharePoint データのバックアップをサポートします。

- SharePoint Server フーム
- FormsServiceBackup
- Forms Service
- DataConnectionFileCollection
- FormTemplateCollection
- ExemptUserAgentCollection
- License to Feature Mappings
- State Service
- Web Application
- Web Application コンテンツ データベース
- Microsoft.Office.Server.Administration.StateServiceProxy
- Microsoft SharePoint Foundation Sandboxed Code Service
- SharePoint Server Search
- Access Services 2010 Web Service アプリケーション
- Secure Store Service アプリケーション
- PowerPoint Conversion Service アプリケーション
- PerformancePoint Service アプリケーション
- Visio Graphics Service アプリケーション
- Managed Metadata Service
- App Management Service アプリケーション
- Excel Services Application Web Service アプリケーション
- Security Token Service アプリケーション
- Microsoft.SharePoint.Administration.Claims.SPClaimEncodingManager
- Microsoft.SharePoint.Administration.Claims.SPSecurityTokenServiceManager
- Microsoft.SharePoint.Administration.Claims.SPClaimProviderManager
- Machine Translation Service
- Word Automation Services

- User Profile Service アプリケーション
- Business Data Connectivity Service アプリケーション
- Work Management Service アプリケーション
- Access Services Web Service アプリケーション
- Search Service アプリケーション
- Microsoft.Office.Server.Search.Administration.SearchAdminDatabase
- Business Data Connectivity Service アプリケーション プロキシ
- PowerPoint Conversion Service アプリケーション プロキシ
- Machine Translation Service プロキシ
- Word Automation Services プロキシ
- Access Services Web Service アプリケーション プロキシ
- Access Services 2010 Web Service アプリケーション プロキシ
- Managed Metadata Service Connection
- PerformancePoint Service アプリケーション プロキシ
- Secure Store Service アプリケーション プロキシ
- Search Service アプリケーション プロキシ
- Work Management Service アプリケーション プロキシ
- App Management Service アプリケーション プロキシ
- User Profile Service アプリケーション プロキシ
- Visio Graphics Service アプリケーション プロキシ

注：このガイドでは、後方互換性ドキュメント ライブラリ、および検索 インデックスは、データベース以外のデータとして分類されており、SharePoint データベースのデータと区別しています。

ファイルシステムのバックアップを使用して、フロントエンド Web サーバに保存されている設定ファイルおよびカスタマイズしたテンプレートを保護します。エージェントは、以下のファイルに対するサポートは提供しません。

- IIS(Internet Information Server) メタベース
- SharePoint の拡張仮想サーバルート ディレクトリ
- カスタム Web パート アセンブリ
- カスタムの SharePoint テンプレートおよび構成ファイル
- SharePoint サイトで使用されるすべてのアドオンソフトウェア

これらの情報は、Arcserve Backup Client Agent for Windows を使用して完全に保護できます。このエージェントの使用についての詳細は、「*Client Agent ユーザガイド*」を参照してください。

Microsoft SharePoint Server 2010 の機能

エージェントでサポートされる SharePoint Server 2010/2013/2016 ファームコンポーネントは以下のとおりです。

- Web Application
- Single Sign-On (SSO) database
- Windows SharePoint Services Help Search
- Global Search settings
- Secure Store Service
- Office SharePoint Server State Service
- Managed Metadata Web Service
- Web Analytics Web Service
- People
- Microsoft.SharePoint.BusinessData.SharedService.BdcService
- Excel Calculation Service
- Word Conversion Service
- Access Service
- Microsoft.Office.Server.Administration.UserProfileServiceProxy
- Microsoft.Office.SecureStoreService.Server.SecureStoreServiceProxy
- Managed Metadata Web Service プロキシ
- Microsoft.Office.Server.WebAnalytics.Administration.WebAnalyticsServiceProxy
- Word Conversion Service
- Search Service アプリケーションプロキシコレクション
- Microsoft.SharePoint.BusinessData.SharedService.BdcServiceProxy
- Office SharePoint Server State Service プロキシ
- InfoPath Forms Services
- Visio Graphics Service
- Search Service アプリケーション

Microsoft SharePoint 2010 データ

Agent for Microsoft SharePoint Server は、以下の SharePoint データのバックアップをサポートします。

- SharePoint Server フーム
- Web Application
- Web Application コンテンツ データベース
- Single Sign-On データベース
- Windows SharePoint Services Help Search
- Global Search Settings
- Secure Store Service
- Secure Store Service アプリケーション
- Office SharePoint Server State Service
- Managed Metadata Web Service
- Managed Metadata Service アプリケーション
- Web Analytics Web Service
- Web Analytics Service アプリケーション
- Web Analytics Stager Database
- Web Analytics Warehouse Database
- People
- Microsoft.Office.Server.Administration.UserProfileApplication
- Microsoft.SharePoint.BusinessData.SharedService.BdcService
- Business Data Catalog Service アプリケーション
- Excel Calculation Service
- Excel Services Web Service アプリケーション
- Word Conversion Service
- Word Conversion Service アプリケーション
- Access Service
- Access Services アプリケーション
- Microsoft.Office.Server.Administration.UserProfileServiceProxy
- Microsoft.Office.Server.Administration.UserProfileApplicationProxy

- Microsoft.Office.SecureStoreService.Server.SecureStoreServiceProxy
- Secure Store Service アプリケーション プロキシ
- Managed Metadata Web Service プロキシ
- Managed Metadata Web Service アプリケーション プロキシ
- Microsoft.Office.Server.WebAnalytics.Administration.WebAnalyticsServiceProxy
- Microsoft.Office.Server.WebAnalytics.Administration.WebAnalyticsServiceApplicationProxy
- Word Conversion Service
- Word Conversion Service アプリケーション
- Search Service アプリケーション プロキシ コレクション
- Search Service アプリケーション プロキシ
- Microsoft.SharePoint.BusinessData.SharedService.BdcServiceProxy
- Business Data Catalog Service アプリケーション プロキシ
- Office SharePoint Server State Service プロキシ
- State Service Application プロキシ
- InfoPath Forms Services
- InfoPath Forms Services Settings
- Data Connections
- Form Templates
- Exempt User Agents
- Visio Graphics Service
- Graphics Service アプリケーション
- Search Service アプリケーション
- Administration Database
- Property Database
- Crawl Database

注：このガイドでは、後方互換性ドキュメント ライブラリ、シングルサインオン(暗号化キー コンポーネントのみ)、および検索インデックスは、データベース以外のデータとして分類されており、SharePoint データベースのデータと区別しています。

ファイルシステムのバックアップを使用して、フロントエンド Web サーバに保存されている設定ファイルおよびカスタマイズしたテンプレートを保護する必要があります。エージェントは、以下のファイルに対するサポートは提供しません。

- IIS(Internet Information Server) メタベース
- SharePoint の拡張仮想サーバルート ディレクトリ
- カスタム Web パート アセンブリ
- カスタムの SharePoint テンプレートおよび構成ファイル
- SharePoint サイトで使用されるすべてのアドオンソフトウェア

この情報は、Arcserve Backup Client Agent for Windows を使って完全に保護できます。このエージェントの使用についての詳細は、「[Client Agent ユーザガイド](#)」を参照してください。

Microsoft SharePoint Server 2007 の機能

エージェントでサポートされる SharePoint Server 2007 ファームコンポーネントは以下のとおりです。

- Web Application
- SharePoint Services Provider (関連する検索インデックスを含む)
- Single Sign-On (SSO) database
- Windows SharePoint Services Help Search
- Global Search settings

Microsoft SharePoint 2007 データ

Agent for Microsoft SharePoint には、Windows システムが必要です。以下の SharePoint データのバックアップがサポートされています。

- SharePoint Server フーム
- Web Application
- Web Application コンテンツ データベース
- Single Sign-On データベース
- Windows SharePoint Services Help Search
- Shared Services Provider
- Shared Services Provider コンテンツ データベース
- Global Search Settings

注: このガイドでは、後方互換性ドキュメント ライブラリ、シングルサインオン(暗号化キー コンポーネントのみ)、および検索インデックスは、データベース以外のデータとして分類されており、SharePoint データベースのデータと区別しています。

第9章: 惨事復旧

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

<u>SharePoint 2010/2013/2016 システム上でのデータベースレベルの惨事復旧の実行方法</u>	110
<u>SharePoint 2007 システム上でのデータベースレベルの惨事復旧の実行方法</u>	111

SharePoint 2010/2013/2016 システム上でのデータベースレベルの惨事復旧の実行方法

ファーム内の 1 つ以上のコンピュータがクラッシュすると、ファーム全体またはいくつかのコンポーネントが破損することがあります。障害が発生した場合は、以下の手順に従って SharePoint データをリストアする必要があります。

1. コンピュータ上のオペレーティングシステムをリストアします。Arcserve Backup Disaster Recovery Option は、これらの手順を自動化するオプション製品です。詳細については、「[Disaster Recovery Option ユーザガイド](#)」を参照してください。
2. 必要なアプリケーションが操作できることを確認します。SQL Server は、Microsoft SQL Server がインストールされているコンピュータ上で実行する必要があります。フロントエンド Web サーバおよびアプリケーション サーバには、SharePoint Server 2010/2013/2016 が必要です。
3. 以下を考慮してください。
 - スタンドアロン サーバ - Microsoft SQL Server 2008 Express
 - 単一サーバファームのデータベース サーバ - SQL Server 2008 Express
4. ファーム全体を復旧する場合は、Microsoft SharePoint 製品とテクノロジ構成ウィザードを使用して新しいファームを作成する必要があります。SharePoint 製品とテクノロジの詳細については、Microsoft のドキュメントを参照してください。
5. 新規ファームを作成した後は、バックアップ操作を開始する前に、すべてのバックアップ サービスが SharePoint 2010/2013/2016 Central Admin で実行されていることを確認してください。

SharePoint 2007 システム上でのデータベース レベルの惨事復旧の実行方法

ファーム内の 1 つ以上のコンピュータがクラッシュすると、ファーム全体またはいくつかのコンポーネントが破損することがあります。障害が発生した場合は、以下の手順に従って SharePoint 2007 データをリストアする必要があります。

1. コンピュータ上のオペレーティングシステムをリストアします。Arcserve Backup Disaster Recovery Option は、これらの手順を自動化するオプション製品です。詳細については、「[Disaster Recovery Option ユーザガイド](#)」を参照してください。
2. 必要なアプリケーションが操作できることを確認します。SQL Server は、Microsoft SQL Server がインストールされているコンピュータ上で実行する必要があります。フロントエンド Web サーバおよびアプリケーション サーバには、SharePoint 2007 が必要です。
3. ファーム全体を復旧する場合は、SharePoint 製品とテクノロジ構成 ウィザードを使用して新しいファームを作成する必要があります。SharePoint 製品とテクノロジの詳細については、Microsoft のドキュメントを参照してください。
4. 新しいファームを作成した後で、以下のサービスが SharePoint 2007 Central Admin で実行中であることを確認します。
 - Windows SharePoint Services Help Search、Office SharePoint Server Search、および Excel Calculation Services for SharePoint 2007 Farm
 - Windows SharePoint Services 3.0 Farm 用の Windows SharePoint Services Search
5. 新しいファームがスタンダードアロン設定の場合は、デフォルトの共有サービスプロバイダ(SharedService1)の名前を、元のファームに存在しない新しい名前に変更する必要があります。リストアの実行後、共有サービスプロバイダを削除できます。
6. ファームまたはそのコンポーネントをリストアします。データベースを SharePoint 2007 にリストアする方法については、「[データベース レベルのデータリストアの実行](#)」を参照してください。

第10章: Microsoft SQL Server のセキュリティ設定

この付録では、Arcserve Backup 用に Microsoft SQL Server のセキュリティを設定する方法について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

<u>Microsoft SQL 認証の種類</u>	114
<u>認証要件</u>	115
<u>Microsoft SQL Server の認証方法の確認と変更</u>	116

Microsoft SQL 認証の種類

Microsoft SQL Server には、次の 2 種類のユーザ認証方法が用意されています。

- Windows ログイン認証を使用する方法
- Microsoft SQL Server 固有のユーザ認証を使用する方法

Microsoft では可能な限り Windows 認証のみを使用するよう推奨していますが、Microsoft SQL Server 認証の方が適切な場合や、Microsoft SQL Server 認証が必要な場合があります。たとえば、データベースがクラスタで実行されている場合には、Microsoft SQL Server 2000 または 2005 の Microsoft SQL Server 認証を使用する必要があります。クラスタの詳細については、Microsoft のマニュアルを参照してください。

認証要件

Microsoft SQL Server 認証を使用する場合は、管理者権限を持つユーザアカウントを指定する必要があります。デフォルトでは、Microsoft SQL Server によって管理者権限を持つ「sa」というアカウントが作成されます。ただし、Agent for Microsoft SharePoint Server では、同等の権限を持つアカウントであるならどちらも使用できます。

Windows 認証を使用している場合、データベースが実行中のマシンに対して管理者と同等の権限を持つアカウントは、通常そのデータベースに対するシステム管理者アクセス権限を持っています。

注： Microsoft SQL Server の BUILTIN\Administrators ログインエントリが削除されているか、このエントリに管理者権限が含まれていない場合、または管理者権限を持たないユーザ用の別の Microsoft SQL Server ログインエントリがある場合は、そのデータベースに対するシステム管理者権限が Windows 管理者またはドメイン管理者に自動的に付与されることはありません。

Microsoft SQL Server の認証方法の確認と変更

Arcserve Backup を使用して、Microsoft SQL Server 認証方法を確認または変更することができます。

Microsoft SQL Server の認証方法の確認と変更の方法

1. Microsoft SQL Server を実行中のシステムで、Microsoft SQL Server Enterprise Manager を開きます。
2. [ツリー]ペインで [コンソールルート]を展開して、該当するデータベースサーバを見つけます。
3. そのサーバ名を右クリックしてドロップダウンリストから [プロパティ]を選択します。
[プロパティ]ダイアログボックスが開きます。
4. [プロパティ]ダイアログボックスで [セキュリティ]タブをクリックします。
5. [認証]フィールドで、以下のオプションからいずれかを選択します。

Microsoft SQL Server および Windows

Microsoft SQL サーバベースの認証を有効にします。

Windowsのみ

Windows ユーザ名とパスワードのみを有効にします。

6. [OK]をクリックします。

ユーザ認証処理が設定されました。

第11章:トラブルシューティング

Arcserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Server を使ったバックアップやリストアに関する問題のトラブルシューティングには、以下の情報が用意されています。

<u>AE9972</u>	118
<u>サイトコレクションを元の場所へリストアできない</u>	119

AE9972

イベント OnRestoreにおいて、AE9972 オブジェクト <Component Name> の失敗エラーを受信した場合は、以下のタスクを実行してください。

1. Windows SharePoint Services Administration として表示される SPAdmin Windows サービスを開始します。
2. SharePoint 3.0 Central Administration Web サイトにアクセスし、[Operations] - [Topology and Services] - [Services on Server] を選択します。
3. エージェント マシン サーバを選択し、[Custom] ラジオ ボックスを選択します。
4. [Central Administration] をクリックします。
5. [開始] をクリックします。
6. 失敗したジョブを再実行します。

サイトコレクションを元の場所へリストアできない

サイトコレクション URL を削除すると、削除された元の場所へサイトコレクションをリストアしても失敗します。

以下の手順を実行します。

1. 別の場所へのリストアを実行します。
2. 元の SharePoint Server を選択します。
3. [Agent リストア環境設定] ダイアログボックスに新しい URL を入力し、リストアプロセスを完了します。

詳細情報:

[SharePoint 2010/2013/2016 で別の場所へのドキュメントレベルリストアを実行](#)

[SharePoint 2007 の別の場所へのドキュメントレベルリストアの実行](#)

第12章: 用語集

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

<u>データベース レベルのバックアップ</u>	122
<u>データベース レベルのリストア</u>	123
<u>ドキュメント レベルのリストア</u>	124

データベース レベルのバックアップ

データベース レベルのバックアップでは、SharePoint Server 2010/2013/2016 または SharePoint Server 2007 のデータベース ファイルがすべてバックアップされます。これは SharePoint Server の基本的なバックアップであり、ほかのバックアップ方式を使用している場合でも常に使用する必要があります。システム障害、データベース破壊、または惨事復旧の場合には、データベース レベルのバックアップを使用して SharePoint Server をリストアできます。

データベースレベルのリストア

データベースレベルのリストアでは、SharePoint Server 2010/2013/2016 または SharePoint Server 2007 のデータベースファイルがすべてリストアされます。システム障害、データベース破壊、または惨事復旧が発生した場合に SharePoint Server をリストアするために使用します。

ドキュメント レベルのリストア

データベースレベルのリストアに対し、ドキュメント レベルのリストアは、事前にバックアップされた SharePoint Server 2010/2013/2016 または SharePoint Server 2007 のドキュメント レベルのコンポーネントを選択し、リストアするために使用します。